

2024 年度  
環境活動のまとめ



## 私たちを取り巻く環境

ならコープは、創立以来「よりよい生活は、平和とよりよい環境の中でこそ実現する」と考え、「安心・安全」を求めてさまざまな活動を展開してきました。そして1991年には、環境に対するならコープの姿勢を「環境基本政策」にまとめ、環境活動の基本的な考え方や方向性を広く内外にアピールするとともに、事業高の千分の一を環境資金に充て、着実に環境を守る取り組みを実践、前進させてきました。

その間も環境をめぐる情勢は大きく変化し、想定を上回る水害や干ばつが全世界で起こり、異常気象と温暖化が顕著になってきています。こうした「地球の危機」を回避するためには、現在わたしたちが依存している化石燃料由来のエネルギーを、CO<sub>2</sub>を排出しない再生可能エネルギー主体に根本的に転換することが必要です。

現在、地球を取り巻く状況はより一層深刻な段階へとすすみ、温暖化の影響による豪雨・渇水・土砂災害やこれまでに経験して来なかった生物絶滅のスピード拡大など、様々な分野への影響拡大を避けることは困難とも予想されています。

異常に暑かった2024年の世界の平均気温は15.1度で記録が残る1850年以降、最も高く2024年の世界の平均気温は産業革命前の水準より1.6度高く、初めて1.5℃を超えました。このまま地球の平均気温が上昇すると生態系にはかり知れない影響を及ぼし、ひいては人間活動や人類の存亡にも関わる事態となることが考えられます。

いまこそ全世界が脱炭素に向け、安心・安全なエネルギーへの転換に一致団結して取り組むことが重要です。たびたび発生する自然災害や地球規模でのウイルスの蔓延、紛争は、誰かが起こした問題ではなく、私たちのこれまでの暮らし方とつながっているのではないかと感じています。奈良の豊かな自然を未来の子どもたちに引き継ぐために、いまに生きる私たちの責任ある行動が求められています。

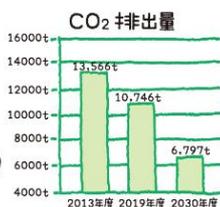
このような情勢の中、ならコープは「2030環境ビジョン」にもとづき、持続可能な社会の実現に向けた行動を開始、エネルギー問題、食品ロス問題、プラスチック問題を中心に活動をすすめました。「2030環境ビジョン」は、ならコープにかかわるすべての関係者のビジョンでもあり、未来への約束です。「子どもや孫のために美しい地球と自然を残したい」という純粋な想いと倫理観を広げ、事業・活動・運営の中で、プラスチックや食品ロスを減らし、CO<sub>2</sub>削減に向け省エネ機器設備を積極導入するだけでなく、化石燃料への依存から自然エネルギーの活用へと舵を切り、新たな環境政策を評価、実践する経営で、組合員の行動の変化につながる取り組みを確実に積み上げていくことをお約束し、2024年度の環境活動についてご報告します。



# ならコープの2030環境ビジョン

## 目標1

CO<sub>2</sub> 排出量を  
50%削減  
(2013年度対比)



① 「2030年に向けた温室効果ガス削減計画」を策定し、着実に実行します。化石燃料由来のエネルギーを、CO<sub>2</sub>を排出しない再生可能エネルギー主体に転換します。

車両のEV化

再生可能エネルギーを  
1300万kWhつくる

## 目標2

食品ロス50%削減 (2019年度対比)

② 生協事業ならびに組合員家庭から生じる食品廃棄物・食品ロスの削減をすすめます。

発注精度を高める

フードドライブ、フードバンク  
活動に協力

## 目標3

プラスチック容器包装排出量を30%削減  
(2018年度対比)

③ プラスチック容器包装材と資材の削減に取り組みます。

自然界で分解するトレーや  
包材への切替

配達時に使用する  
内掛袋を削減

## 目標4

行動指針  
(エシカル消費の拡大)



④ 奈良の豊かな自然と文化を守り次世代の子どもたちに引き継ぐため、環境にやさしい地域づくりをすすめます。

地元食材や生態系に配慮した商品の利用

## 2030環境ビジョンの考え方(大切にしたいこと)

奈良の豊かな自然を  
次世代の子どもたちに残す

大量生産・大量消費・大量廃棄  
使い捨て文化からの脱却

エネルギー問題・ごみ問題  
(食品ロス・海洋プラスチック)  
の解決

国連が提唱する持続可能な  
開発目標(SDGs)の具体化



2050年にゼロエミッションの実現



## 2030 環境ビジョン目標に対する進捗状況

	項目	単位	基準年	基準年 実績	目標 2030年度	実績 2024年度	目標 2024年度	目標達成率 (目標/実績)
地球 温暖 化 対 策	「減らす」 CO <sub>2</sub> 排出量50%削減 (2050年実質ゼロ)	t-CO <sub>2</sub>	2013	13,566	6,783	10,583	8,140	76.9%
	「つくる」 再生可能エネルギー発電量	千kWh	2013	570	13,000	6,363	10,000	63.6%
	「減らす」 電気使用量削減	千kWh	2013	20,037	15,000	18,109	15,000	82.8%
	「減らす」 ならコープでんきCO <sub>2</sub> 排出量係数	kg-CO <sub>2</sub>	2013	0.52	0.17	0.375	0.27	72.0%
	組合員が「つくる」 再生可能エネルギー	千kWh	2013	0.00	2,000	980	3,500	28.0%
	「自立する」「減らす」 ならコープでんき利用組合員を増やし、家庭 から排出するCO <sub>2</sub> 排出量削減	供給地点	2013	0	12,000	3,497	10,000	35.0%
	「減らす」 奈良県の一人あたりCO <sub>2</sub> 排出量の削減	t-CO <sub>2</sub>	2013	6,542	4,500	未集計	目標を 持たない	-
廃 棄 物 削 減	事業で排出する食品廃棄物50%削減	kg	2019	409,573	204,786	365,142	286,701	78.5%
	事業で使用するプラスチック容器包装使用量を30%削減	kg	2018	209,818	146,872	171,302	188,836	110.2%

※つくる目標達成率に関しては(実績/目標)で計算

### 《基準年》

CO<sub>2</sub>排出量削減(2013年)、食品ロス削減(2019年)、プラスチック容器包装削減(2018年)

### 《対象範囲》

#### ① 温室効果ガス排出量、エネルギー使用量(電気・燃料・ガスなど)

ならコープ本体のみ(無店舗事業・店舗事業の配送委託業者の燃料使用量含む)

#### ② 再生可能エネルギー発電量

ならコープ、(株)CWS(つくばね発電所出資比率にて算出)、(株)コープエナジーなら

#### ③ 事業で排出する食品ロス

ならコープ本体事業(無店舗事業・宅配事業・店舗事業・物流センター・農産加工センター)

※店舗等テナント含まず

#### ④ 事業で使用する容器包装使用量

容器包装リサイクル法の適用範囲のならコープ本体事業の容器包装

※大手電力会社供給分のCO<sub>2</sub>排出係数は、全国の生協が加盟する日本生活協同組合連合会で定められた統一排出係数を使用しています。(株)CWS(ならコープでんき)供給分は、電気事業者別排出係数(令和6年度実績)を使用しています。

# コープSDGs行動宣言

## 私たち生協は、SDGs(持続可能な開発目標)に貢献することを約束(コミット)します。



私たちは、「生協の21世紀理念(1997年総会決定)」のもと、助け合いの組織として、誰もが笑顔でくらすことができる、持続可能な社会の実現をめざし、様々な取り組みを進めてきました。誰も取り残さないというSDGsのめざすものは、協同組合の理念と重なり合っています。私たちは、あらためて持続可能な社会の実現に向けて取り組むことを、「SDGs行動宣言」としてまとめました。私たちは、以下の7つの取り組みを通じて、世界の人々とともにSDGsを実現していきます。



### ●ジェンダー平等と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します

私たちは、地域における活動を通じて、社会のジェンダー平等と多様な人々が共生できる社会の実現に貢献します。女性も男性も、誰もが元気に、生きがいを持って動き続けられる生協づくりを進めます。



### ●持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます

私たちは、「つくる責任」と「つかう責任」の好循環を発展させ、持続可能な社会づくりをめざします。国内外の人々、そして限りある地球資源へ思いをはせ、商品の開発と供給を進めます。学習活動を通じて、エシカル消費や持続可能な社会に関する理解を促進し、私たち自らの消費行動やくらしのあり方を見直していきます。



### ●地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します

私たちは、地球の持続可能性を揺るがす気候変動の脅威に対して、意欲的な温室効果ガス削減目標を掲げ、省エネルギーと再生可能エネルギーの導入に積極的に取り組みます。再生可能エネルギーの電源開発や家庭用電気小売を広げ、原子力発電に頼らないエネルギー政策への転換をめざします。



### ●誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します

私たちは、誰一人取り残さず、安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します。自治体や諸団体との連携を大切にしつつ、地域の見守り、移動販売や配食事業など、生協の事業や活動のインフラを活用し、地域における役割発揮を進めます。



### ●核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します

私たちは、「核なき世界」の実現のために、世界の人々と手を携えて、核兵器を廃絶し、平和な社会をめざす取り組みを進めます。私たちは、次の世代に被爆・戦争体験を継承し、日本国憲法の基本原則である平和主義のもと世界平和の実現に積極的に貢献します。



### ●健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます

私たちは、食生活、運動、社会参加の視点から健康づくりを進めます。安全・安心はもとより、より健康な食生活に向けた商品事業と組合員活動を推進します。生活習慣病や介護予防など「予防」を重視し、福祉事業や助け合い活動を広げ、自治体や諸団体と連携し、地域包括ケアシステムのネットワークに参画します。



### ●世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します

私たちは、誰一人取り残さない世界をめざして、世界が抱える問題についての理解を深め、助け合いの精神を貫き、ユニセフ募金などに取り組み、世界の子どもたちを支援します。「貧困」の連鎖をなくしていくために、子どもの貧困について学び、話し合う活動を広げ、子ども食堂やフードバンク・フードドライブなどの取り組みを進めます。

1. 地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します

《関連するSDGsの主たる目標》



目標7(エネルギー)

すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。

目標13(気候変動)

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。

私たちは、地球の持続可能性を揺るがす気候変動の脅威に対して、意欲的な温室効果ガス削減目標を掲げ、省エネルギーと再生可能エネルギーの導入に積極的に取り組みます。再生可能エネルギーの電源開発や家庭用電気小売を広げ、原子力発電に頼らないエネルギー政策への転換をめざします。

(1) 温室効果ガス削減の取り組み

2024年度エネルギー使用量

修正分

項目	実績	計画	計画差	計画比	前年	前年差	前年比
電気(太陽光自家消費)(kWh)	1,187,620	1,263,187	-75,567	94.0%	1,167,005	20,615	101.8%
電気(kWh)	18,109,643	15,000,000	3,109,643	82.8%	17,780,449	329,194	98.2%
A重油(L)	35,148	21,032	14,116	59.8%	35,148	-	100.0%
ガソリン(L)	235,011	107,643	127,368	45.8%	127,652	107,358	54.3%
軽油(L)	1,368,095	1,674,150	-306,055	122.4%	1,443,988	-75,893	105.5%
BDF(L)	-	-	-	#DIV/0!	-	-	#DIV/0!
水素(m³)	43	-	43	0.0%	47.8	-5	110.4%
車両LPG(L)	-	-	-	#DIV/0!	-	-	#DIV/0!
都市ガス(m³)	20,786	24,894	-4,108	119.8%	23,487	-2,701	113.0%
事業所LPG(m³)	122	124	-2	102.0%	135	-13	110.9%

(表1)

2024年度CO<sub>2</sub>排出量

修正分

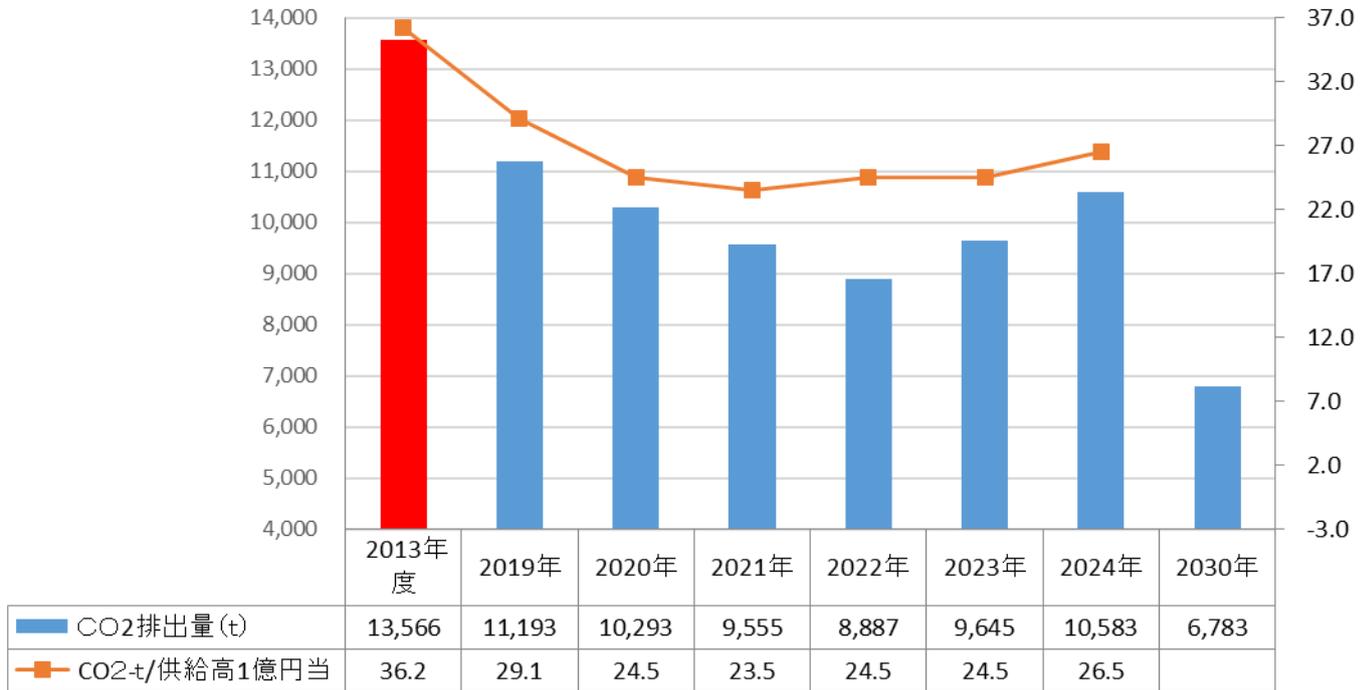
単位(t-CO<sub>2</sub>)

項目	係数	実績	計画	計画差	計画比	前年	前年差	前年比
電気(太陽光自家消費)(kWh)	-	-	-	-	-	-	-	-
電気	0.375	6,365	3,843	2,522	60.4%	5,493	872	86.3%
A重油	2.71	95	57	38	59.8%	95	-	100.0%
ガソリン	2.32	545	240	305	44.1%	296	249	54.3%
軽油	2.62	3,530	4,154	-624	117.7%	3,725	-196	105.5%
BDF	1.29	-	-	-	#DIV/0!	-	-	#DIV/0!
水素	2.34	0	-	0	0.0%	0	-0	110.4%
車両LPG	1.68	-	-	-	#DIV/0!	-	-	#DIV/0!
都市ガス	2.11	46	58	-12	125.2%	52	-6	113.0%
事業所LPG	6.09	1	1	-0	102.8%	1	-0	110.9%
CO <sub>2</sub> 排出量		10,583	8,353	2,230	78.9%	9,663	919	91.3%

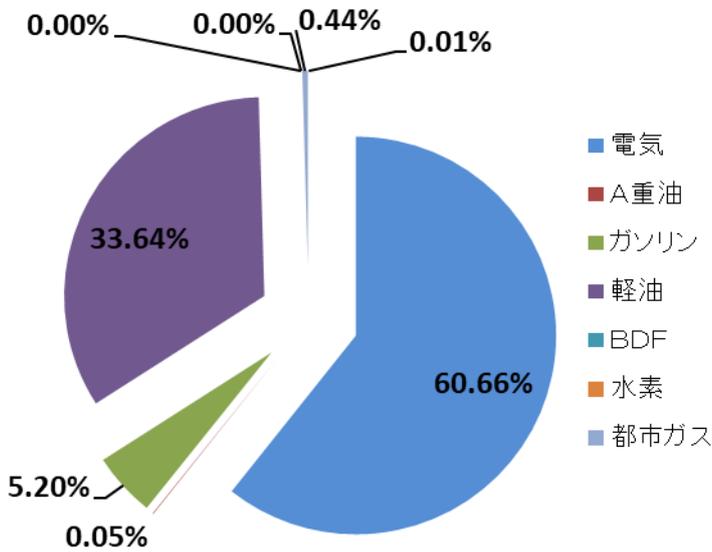
※電気の排出係数については、ならコープでんき0.375、関西電力0.419で使用量で計算しております。

(表2)

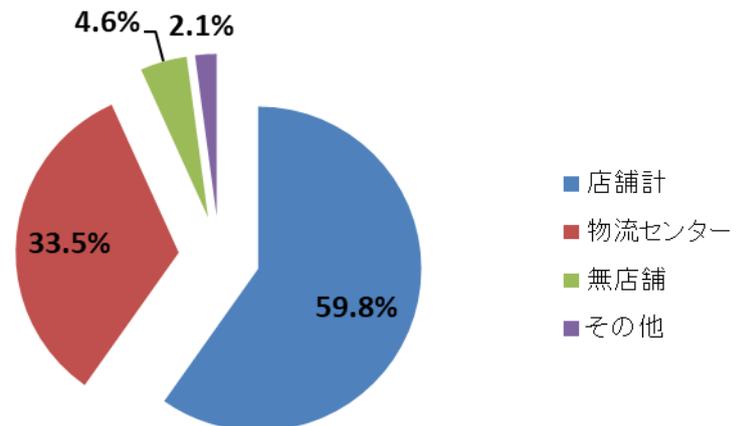
## CO<sub>2</sub>排出量の推移と1億円あたり排出量(t-CO<sub>2</sub>)



## 2024年度燃料別CO<sub>2</sub>排出量比率



## 事業所別電気使用量比率

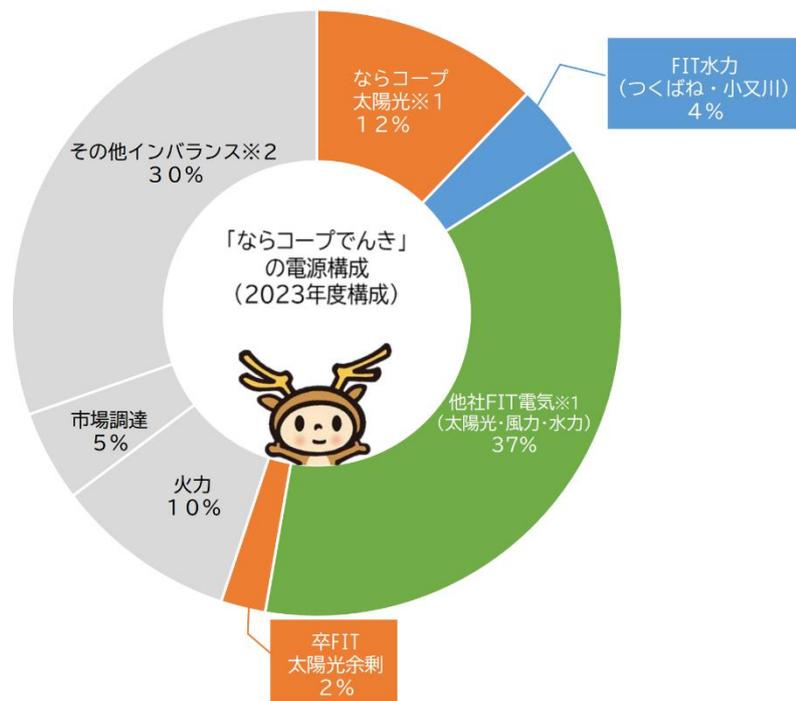


地球温暖化防止自主行動計画にもとづき温室効果ガス削減に取り組みました。2024 年度CO<sub>2</sub>総排出量は10,583t-CO<sub>2</sub>(計画 8,353t-CO<sub>2</sub>、計画比 78.9%、前年比 91.3%)と温室効果ガス削減を実現することができませんでした(表2)。

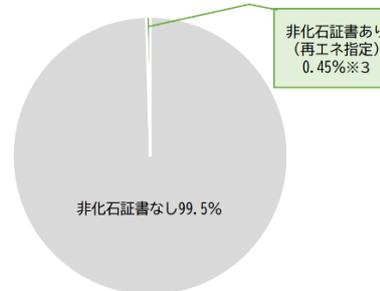
① 電気使用量は18,109 千kWh(計画 15,000kWh、計画比 82.8%、前年 17,780 kWh 前年比

98.2%)と計画、前年から増加してしまいました。2024 年度の電気使用量が増えた要因として、国連の気象機関が発表したように2024 年は観測史上最も暑い1年であったこともあり、空調等の使用が多くなったことも要因となります。また山の辺センターや下市コミュニティスタンドの開設で拠点数が増加しました。

- ② 2023 年度の電源構成については、再生可能エネルギー比率は55%となり、他社 FIT が37%(前年 20%)、火力発電の割合は10%(前年 31%)と減少したが排出係数の算定方法の変更があり、ならこーブでんきのCO<sub>2</sub>排出係数は0.375kg-CO<sub>2</sub>(前年 0.333 kg-CO<sub>2</sub>、前年比 113.6%)と0.042 ポイント増加しました。2025 年度は電源のCO<sub>2</sub>排出係数低減のために、小水力発電や太陽光発電などの地産地消型電源(FIT 電源)を継続して優先的に調達し、あらたな再生可能エネルギーの調達の調査、検討を進めていきます。また電気使用量の削減に向けた積極的な取り組みや節電機器の導入についても継続して実施していきます。



非化石証書の使用状況 (2023年度実績)



※3 非化石証書の使用状況 (2023年度) には、2023年1月から2023年12月発電分の非化石証書を充当しています。

- 1) 2023 年度に電気使用量の削減に向けた取り組みとして、ならこーブ全体の約 33.5%の電気を使用している物流センターの約半分の分電盤にパワーガード(高調波の抑制に効果がある環境ソリューション製品)を導入し、効果が確認されたことを受け、2024 年度には残りの半分の分電盤にも設置をおこない約 7%程度の削減効果を見込んでいます。



- 2) ならこーブ全体では、エコオフィス手順を策定しエアコンの設定温度を基本冷房 26℃以上(オフィスは 28℃以上)、暖房 20℃以下として省エネに努めました。猛暑が予想される中で家庭のエネルギー消費を抑えかつ組合員へ健康と快適さを提供することを目的に店舗で「クールシェア」を実施しました。
- 3) CO<sub>2</sub>排出量が多い電気使用量の削減に向けて 1 月から節電行動を実施し店舗では、飲料やお酒販売

用什器の照明オフや店舗によっては什器を停止させ常温での販売をおこないましたが組合員からはお叱り等は発生しませんでした。

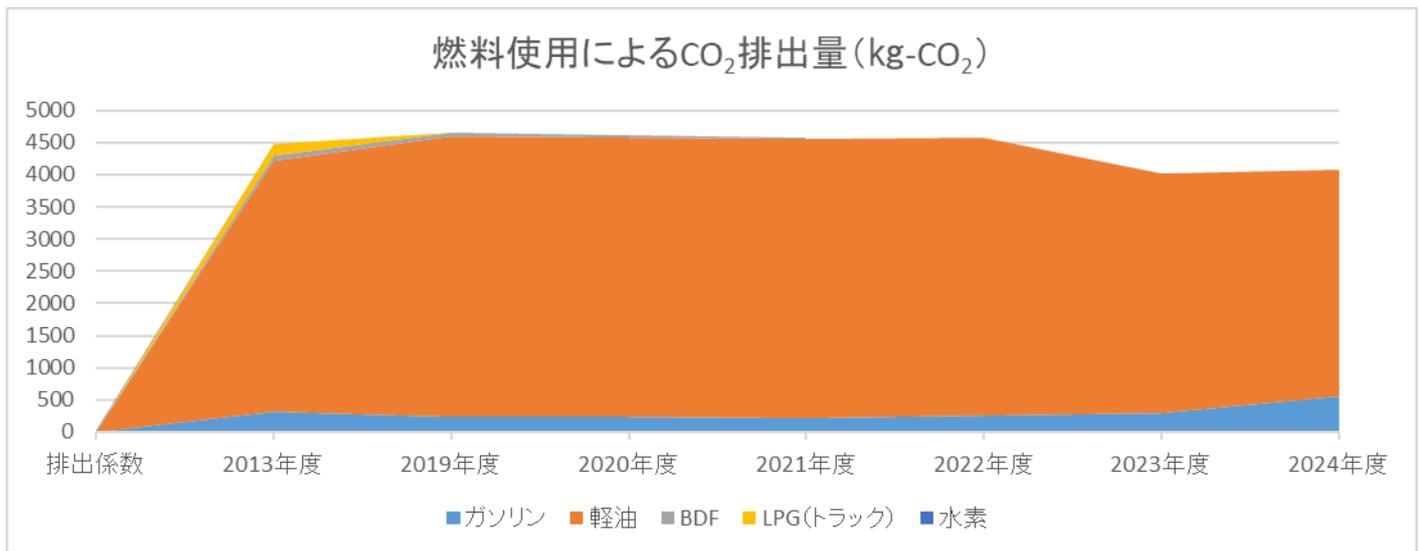
- 4) 山の辺センターはならコープ 7 つ目の配達拠点として天理市に建設しました。2025 年度には太陽光発電、蓄電設備を備えた施設とし再生可能エネルギーだけで運用できる事業所を目指しています。また、配達の効率化、倉庫作業改善を図り、いすゞ自動車の EV トラックを導入することで CO<sub>2</sub> 排出量削減を目指しています。商品の一時保管用の大型冷蔵庫を持たない「ジャストイン物流」のシステムを導入しています。これにより、電気使用量を削減することも狙いとしています。



③ 車両燃料使用量

	単位	2013年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ガソリン	リットル	136,606	99,975	100,076	92,612	108,950	127,652	235,011
軽油	リットル	1,515,189	1,687,436	1,679,369	1,678,467	1,672,072	1,443,988	1,368,095
BDF	リットル	55,834	54,048	36,351	15,820	3,100	0	0
LPG(トラック)	m <sup>3</sup>	103,683	3,254	2,649	0	0	0	0
水素	m <sup>3</sup>				24	44	48	43

(表 3)



(図 3)

- 1) ガソリン使用量は 235,011L(前年 127,652L、前年比 184.1%)、軽油使用量は 1,368,095L(前年 1,443,988L、前年比 94.7%)となりました。



無店舗での普通運転免許で運転ができるガソリントラックが増加したことで、ガソリンの使用量が増加しました。2024年7月から物流センタードライ棟が完成し稼働を始めたことでこれまで大阪パル物流までのドライ商品の輸送がなくなり軽油の使用量を抑えることが出来ました。配達コースの効率化を進めトラックの走行距離の削減を図っていきます。

- 2) 化石燃料由来の燃料使用量削減と、災害等発生時に自治体などの要請に応じて必要な場所に電気を移動させることを目的に導入している環境配慮型車両(水素自動車・電気自動車・プラグインハイブリッド車)は合計54台になりました。また2024年度は新たにトラックタイプの配送用EVとして2024年度10月に開所した山の辺センターでの実運用に向けてこれまでと同様の運用ができるいすゞ自動車(株)ELF ミオEVを2台導入しました。



④ ガス使用量

	2013年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
都市ガス	69,551	53,898	44,834	36,039	29,453	27,677	23,487	20,786
前年比		77.5%	83.2%	80.4%	81.7%	94.0%	84.9%	88.5%
LPガス	1,102	148	142	136	131	133	135	122
前年比		13.4%	95.9%	95.7%	96.4%	101.5%	101.4%	90.1%

(表4)

都市ガス使用量は前年比88.5%、LPガス使用量は前年比90.1%となりました(表4)。ガス空調機(GHP)を使用していたコープたかだの閉店(2019年9月)と、コープみみなしにおけるガス空調機から電気空調機(EHP)への転換(2021年2月)によりガス使用量は減少しています。化石燃料由来の都市ガスから、再生可能エネルギーが半分を占めるならコープでんきを利用することで環境負荷軽減につなげています。

⑤ フロン排出抑制法への対応

2015年4月施行のフロン排出抑制法に基づき、ならコープでは簡易点検や定期点検を実施しました。ならコープ全体の年間漏洩量は98t-CO<sub>2</sub>(前年267t-CO<sub>2</sub>)でした。2024年度はコープおしくま(39t-CO<sub>2</sub>)、コープいこま(59t-CO<sub>2</sub>)の冷凍冷蔵設備の経年劣化で発生していますが、昨年から大きく削減出来ています。また年間のフロン類の漏洩量が1,000t-CO<sub>2</sub>以下となることから国への報告義務はありません。

(1) 再生可能エネルギー拡大の取り組み

ならコープ発電施設一覧

環境エネルギー推進室

発電所名	設置年月	事業者名	発電規模 (kW)	事業内容	投資金額 (千円)	累計 売電収益 (千円)	投資 回収率	2024年度 売電収益 (千円)	2024年度 発電量 (qWh)	2023年度 発電量 (qWh)	前年比
物流センター東棟・西棟	2012年6月	ならコープ	829	FIT	¥225,303	¥378,301	167.9%	¥30,903	772,580	775,326	99.6%
物流センター北棟・田原本支所	2014年10月	ならコープ	273	FIT	¥70,231	¥118,390	168.6%	¥11,861	296,530	200,474	147.9%
吉野事業所	2016年8月	ならコープ	890	FIT	¥238,295	¥231,177	97.0%	¥22,767	711,482	748,186	95.1%
吉野事業所	2016年8月	ならコープ	14	自家消費	-	¥1,544	-	¥217	11,700	14,089	83.0%
本部事業棟	2016年12月	ならコープ	49	自家消費	¥17,400	¥9,826	56.5%	¥1,245	65,532	64,862	101.0%
コープ真美ヶ丘	2018年6月	ならコープ	66	自家消費	¥14,178	¥9,261	65.3%	¥1,443	68,724	62,292	110.3%
エコSUNシャイン	2012年11月	(株)CEN	95	FIT	¥30,472	¥49,235	161.6%	¥3,475	86,883	91,997	94.4%
桜井支所	2015年9月	(株)CEN	53	FIT	¥15,908	¥17,994	113.1%	¥1,825	57,036	57,032	100.0%
西奈良支所	2015年9月	(株)CEN	53	FIT	¥15,885	¥18,874	118.8%	¥1,990	62,177	61,633	100.9%
コープつつたがわ	2015年9月	(株)CEN	365	FIT	¥99,367	¥127,721	128.5%	¥13,311	415,954	422,498	98.5%
コープみみなし	2015年10月	(株)CEN	248	FIT	¥67,314	¥84,515	125.6%	¥9,068	283,365	277,976	101.9%
コープ朱雀	2015年11月	(株)CEN	256	FIT	¥72,163	¥91,597	126.9%	¥9,797	306,145	307,172	99.7%
京都綾部(関西丸和(株))	2016年10月	(株)CEN	301	FIT	¥60,200	¥59,526	98.9%	¥6,695	278,950	306,226	91.1%
コープなんごう	2017年1月	(株)CEN	61	FIT	¥18,224	¥12,813	70.3%	¥1,627	67,798	66,937	101.3%
コープなんごう	2017年2月	(株)CEN	308	自家消費	¥73,924	¥44,900	60.7%	¥2,040	352,046	349,642	100.7%
奈良五條(株真秀ロジスティクス)	2017年5月	(株)CEN	308	FIT	¥61,600	¥57,200	92.9%	¥7,406	308,568	190,648	161.9%
奈良桜井(巽製粉(株))	2017年11月	(株)CEN	238	FIT	¥48,000	¥55,629	115.9%	¥8,363	232,308	213,145	109.0%
コープ七条	2018年2月	(株)CEN	314	自家消費	¥43,500	¥48,143	110.7%	¥6,554	339,581	331,632	102.4%
大阪門真(光陽商事(株))	2019年6月	(株)CEN	90	FIT	¥14,200	¥10,463	73.7%	¥1,820	101,091	99,980	101.1%
コープいまご	2020年2月	(株)CEN	108	自家消費	¥16,500	¥9,065	54.9%	¥1,749	100,515	94,361	106.5%
ここ和発電所	2020年2月	(株)CEN	5	自家消費	¥1,800	¥677	37.6%	¥161	6,212	6,392	97.2%
かわかみらいふ発電所	2020年3月	(株)CEN	5	自家消費	¥1,800	¥570	31.7%	¥128	4,971	5,518	90.1%
ならコープ下市ステーション	2021年4月	(株)CEN	20	自家消費	¥7,500	¥1,859	24.8%	¥619	18,208	18,653	97.6%
コープ学園前	2022年3月	(株)CEN	249	自家消費	¥32,000	¥15,477	48.4%	¥5,007	282,881	283,304	99.9%
天理市立南中学校(自治体PPA)	2023年3月	(株)CEN	56	自家消費	¥10,644	¥2,116	19.9%	¥697	55,325	57,301	96.6%
旧農産加工センター	2022年3月	おひさまPPA(株)	131	自家消費	¥15,090	¥2,674	17.7%	¥896	116,449	112,130	103.9%
小又川発電所(小水力)	2020年6月	(株)CEN	180	FIT	¥320,000	¥92,504	28.9%	¥29,122	856,543	893,058	95.9%
【参考】つくばね発電所(小水力)	2017年7月	東吉野水力発電(株)	82	FIT		¥0		¥0	503,970	486,675	103.6%
合計			5,666		¥1,605,924	¥1,555,174	96.8%	¥181,214	6,783,198	6,619,201	102.5%
ならコープグループ計			5,485		¥1,590,834	¥1,552,501	97.6%	¥180,318	6,364,366	6,215,066	102.4%
				FIT	¥1,357,162	¥1,405,939	103.6%	¥1,405,939	5,341,380	5,198,964	102.7%
				自家消費	¥248,762	¥149,235	60.0%	¥149,235	1,441,818	1,420,238	101.5%

※吉野発電所の自家消費の投資金額は吉野発電所FITに含まれています。 自家消費 ¥248,762 ¥149,235 60.0% ¥149,235 1,441,818 1,420,238 101.5%

※ならコープグループ計は東吉野水力発電(株)の株CWS出資比率40%でつくばね発電所発電規模・発電量を算出(売電収益は計算外)

※自家消費の売電収益はならコープが設置した施設は株CWSが供給する高圧電力料金平均単価×使用電力量、(株)コープエナジーならが設置した施設は契約単価で計算。

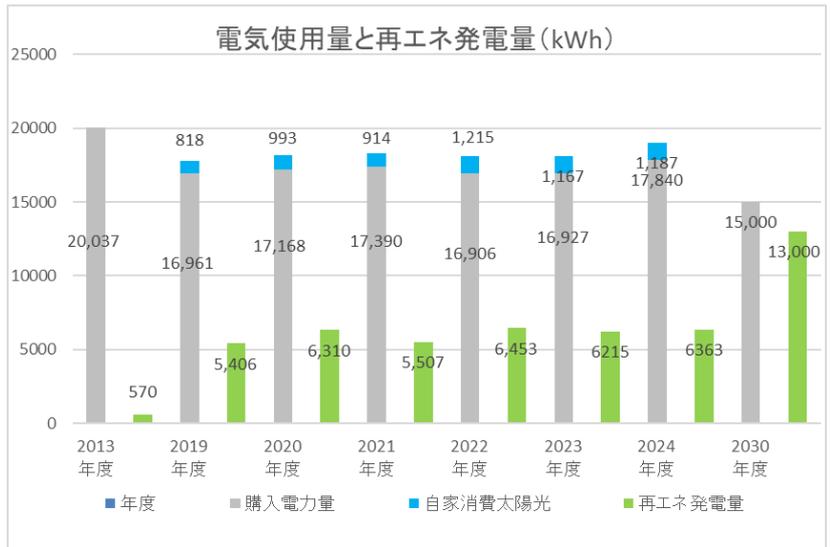
※黄色マーカー分は投資回収が終了した分になります。

※物流センター東棟(要冷棟)・西棟(KSC棟)になります。

(表5)

① 再生可能エネルギーを「つくる」取り組み

再生可能エネルギー発電量は6,363千kWh(計画10,000千kWh、計画比63.6%、前年6,215千kWh、前年比102.3%)、発電容量は5,485kW(前5,485kW、前年比100.0%)となります。設置から期間が経っている発電所についてはPCSの故障が発生する可能性が高く、今後も日常的な監視と不具合発生時には早急に復旧対応をおこない売電収入を確保していく必要があります。また2024年3月31日にならコープではじめての太陽光発電の出力制御



御指令(火力電源の抑制や連系線の活用等の対策を実施しても、需要に対する電気の供給が余剰になると見込まれるため発電施設を順番に制御する措置)の発電停止指令があり吉野事業所(計12日間)、物流センター(要冷凍・KSC棟)(計10日間)の発電を停止しました。出力制御指令は再生可能エネルギーの普及と活用を抑制することにつながり国内においては再生可能エネルギーの自給率の低下を招く恐れがあることから、広く職員にお知らせし、再生可能エネルギーの推進について考えてもらう機会とすることを目的に自然エネルギー市民の会(PARE)がおこなっている署名活動をおこないました。再生可能エネルギーが無駄になっていることの広報や昼間の再生可能エネルギーの活用を検討していきます。

1) 奈良県最南端の村である下北山村とならコープエナジーならが協働して開発した小又川小水力発電所は順調に発電をおこなっています。2023年12月に下北山村上池原の国道169号線で大規模な崩落事故が発生し県内外の観光需要の激減・地域活性の遅延に歯止めを利かすため、下北山村の特産商品を販売し応援するキャンペーンを実施し、村の現状やならコープが迂回して配達をおこなっていることなどについての情報発信をならコープの店舗でおこないました。



2) 奈良県南部の吉野郡下市町の南都銀行下市支店が閉店、閉店後の施設の有効活用について、下市町・南都銀行・ならコープ3者で協議し、住み続けられる地域づくりを目的とした事業所「ならコープ下市ステーション(2021年4月開設)」に太陽光発電(19.4kW)と蓄電池(4kWh)、EVのバッテリーから施設に給電できるV2H(Vehicle to Home)<sup>1</sup>を設置しました。災害時に地域で活用するエネルギーの「自立」に貢献する取り組みが進んでいます。

同事業所には、奈良県の補助金「令和3年度地域エネルギー資源活用支援事業」を活用して一般財団法人 再エネ協同基金が薪ストーブを設置し2021年12月より運用しています。薪ストーブの燃料である薪は下市町の林業者から購入(奈良県及び京都府南部の広葉樹が中心)し使用しています。2025年2月には昨年に引き続き一般財団



太陽光発電とV2H(下市ステーション)

法人 再エネ協同基金主催の下市ステーション薪割り体験会を開催し、次年度以降に下市ステーションの薪ストーブで使用する薪を確保すべく組合員とともに薪割りをおこないました。

② 再生可能エネルギーを利用するならコープでんきの取り組み

ならコープでんき供給地点数の推移

ID	項目	2016年度末	2017年度末	2018年度末	2019年度末	2020年度末	2021年度末	2022年度末	2023年度末	2024年度末
1	供給地点数(計画)	4,000	6,700	10,000	12,000	7,000	7,000	7,000	7,000	10,000
2	供給地点数	3,437	4,529	4,823	4,710	4,714	4,982	4,791	3,727	3,497
3	供給地点数(前年差)	-	1,092	294	-113	4	268	-191	-1,064	-230
4	供給地点数(計画差)	-345	-1,800	-4,491	-6,155	-1,155	-1,155	-1,155	-1,155	-4,155
5	供給地点数(達成率)	85.9%	67.6%	48.2%	39.3%	67.3%	71.2%	68.4%	53.2%	35.0%
6	組合員数	269,972	274,149	275,434	276,394	278,097	279,117	279,017	278,473	278,398
7	組合員数に対する契約件数比率	1.3%	1.7%	1.8%	1.7%	1.7%	1.8%	1.7%	1.3%	1.3%

(表 6)

- 1) ならコープでんき供給地点数は 3,497 地点(計画 10,000 地点、前年 3,727 地点、計画比 49.9%、前年比 94.9%、前年差 230 地点)となりました。ならコープでんき普及には困難な状況が続きますが、エネルギーの地産地消を目指し粘り強く行動を続けます。2024 年度はならコープのこれまでの環境関係の取り組みや最新の環境問題とならコープでんきについての学習会を各支所で実施し、ならコープ商品のひとつとしてのならコープでんきの推進を進めました。
- 2) ㈱CWSが提供するならコープでんきは、太陽光発電で発電した電気を一定価格で買い取る制度である固定価格買取制度(以下FIT制度)の買取期間が終了する組合員からの買取方針を確定し、2019 年 11 月から組合員宅屋根の太陽光発電由来の電気の買取を開始しています。2024 年度末には組合員 325 人(買取発電量 890,475kWh)が「ならコープでんき」の生産者となって「小さなみんなの発電所」を実現しており、ならコープでんき電源構成の 2%を占めるようになりました。少しずつですが奈良県産エネルギーが増加しています。店舗にはならコープでんき、卒FITの買取のポスター、パンフレットを設置し、広報に努めました。
- 3) 2022 年 12 月に事業活動で使用する電力を再生可能エネルギーで賄う「再エネ 100 宣言 RE Action<sup>2</sup>」に登録(大阪いずみ市民生活協同組合、青森県民生活協同組合に続き 3 生協目)、2035 年度に全事業活動で使用する電力を再エネで運営することを宣言しました。

2023 年度はならコープ本部はトラッキング付き非化石証書を購入し、目標としていた再エネ 100%での運用を実現できました。2024 年は継続してならコープ本部の再エネ 100%での運用と計画に基づいてコープ真美ヶ丘、下市ステーション、山の辺センターの達成を目指し電気使用量の削減とともに最終の電気使用量の確定後に 2025 年 5 月にトラッキング付き非化石証書を購入し 2024 年度の再エネ 100%での運用の実現を目指しています。



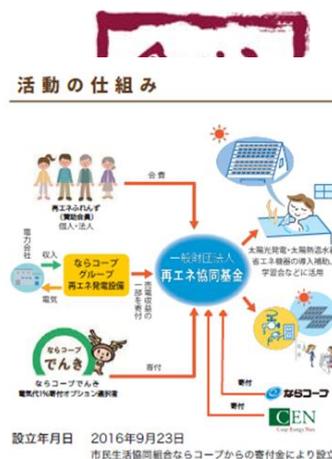
(再エネ 100 宣言 RE Action)

4) 再エネや省エネの普及啓発に取り組む(一財)再エネ協同基金の活動

2016年、ならコープが太陽光発電の売電収益の一部を寄付して創設し、その基金を管理運営している(一財)再エネ協同基金は9年目の事業年度を終了しました。2024年はならコープから300万円を寄付し2016年から累計で3,000万円を寄付しています。2024年度の学習事業には14企画で延べ360人(前年15企画、延べ209人)が参加、再生可能エネルギーや省エネルギーの利活用機器導入に対する助成事業では54人に1,609,000円(前年60人1,990,000円)を助成することができました。

また卒FITの買い取りについて再エネ協同基金の寄付オプション選択の72名226,433kWhに対して支援することができました。

これらの取り組みを応援する仲間である賛助会員(再エネふれんず)は昨年から59人増加し913人(個人880人、団体3人)となりました。



(一財)再エネ協同基金スキーム図

(表7)

項目	申請件数	助成金額	
太陽熱温水器	50,000	0	
ペレットストーブ・薪ストーブ	50,000	1	50,000
太陽光発電 1kWあたり	10,000	11	434,000
おひさまエコキュート	30,000	1	30,000
住宅用定置型蓄電; 1kWあたり	10,000	23	880,000
ポータブルバッテリー (1kW以上)	10,000	2	20,000
ポータブルバッテリー (1kW未満)+ソーラーパネル	5,000		
断熱窓	5,000、10,000	4	55,000
冷蔵庫、エアコンの買替	5,000	3	0
節水型トイレ 一台につき	10,000	7	90,000
電動アシスト付き自転車	10,000	0	0
発電事業	50,000	0	0
EV購入	50,000	2	50,000
V2H導入	100,000	0	0
調査研究・学習活動	50,000	0	0
合計	54	1,609,000	

2. 持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます。

私たちは、「つくる責任」と「つかう責任」の好循環を発展させ、持続可能な社会づくりをめざします。国内外の人々、そして限りある地球資源へ思いをはせ、商品の開発と供給を進めます。学習活動を通じて、エシカル消費や持続可能な社会に関する理解を促進し、私たち自らの消費行動やくらしのあり方を見直していきます。

### 《関連するSDGsの主たる目標》



目標12(つくる責任、つかう責任)  
持続可能な生産消費形態を確保する。

### 《関連するSDGsの目標》



#### (1) 豊かな地域を作る取り組み

##### ① 地元食材を利用する取り組み

「食べる“なら”大和」では地産地消製品のブランドとして、JAならけん とならコープが県内農産物や、県内農産物を主原料とした加工食品の案内に一緒に取り組み、地域経済に貢献しています。

1) ならコープ店舗では、県内産農産物食材の直営販売をおこなっています。生産者自らが店頭で商品陳列を実施することで地域内消費につながっています。

2) 2016年5月に設立された子会社の**就労継続支援A型事業所(株)ハートフルコープ**よしのは、農産集荷事業をはじめ、天然の湧き水を使用した宅配水事業(奈良桜よしの天然水)や水耕栽培事業(フリルレタス)を展開しています。「桜よしの天然水8Lボトル」1点利用につき1円を積み立て、奈良県環境県民フォーラム<sup>3)</sup>に寄付することで奈良県内をフィールドに活動する環境保全団体を支援し、奈良県の環境保全につなげています。2024年度分としては42,591円(前年46,301円)を寄付する予定です。2014年から供給を開始した「米粉入り食パン」1点購入につき1円を積み立て2015年から奈良県環境県民フォーラムへ寄付を始めました。2018年からは「桜よしの天然水 8Lボトル」の購入への寄付に変え 2024年までの累計で460,756円を寄付しました。宅配水ボトルを自社工場で製造することで輸送によるCO<sub>2</sub>削減につなげています。水耕栽培のフリルレタスは夏期の熱暑、大雨、台風など気象条件が安定しない中、安定価格で供給することが出来ました。(株)ハートフルコープよしのは障がい者総合支援法に基づく就労機会を提供する施設として運営され、障がい者の雇用にもつながっています。



(奈良県エコキャラクター)

3) 2022年度から取り組みを始めた農業事業は五條市にコープの農場を整備、白菜やキュウリなどの農産物を生産する産直生産者から指導を受け、とうもろこし、サツマイモを生産しました。店舗や無店舗事業で組合員にお届けしました。2024年度には3年目を迎え、ホワイトコーン、白菜、**玉ねぎ、いちご、メロン**など、近大ICT農法へのチャレンジやハートフルコープよしの職員による農業支援など、農業自給率の向上、農業技術の伝承、農福連携などに向けた取り組みをすすめました。また、コープの農場での農作業に職員が参加することで、農産物を栽培する大変さを体感する機会に繋がっています。また「コープの農園応援隊」として定期的に農作業をおこない農作物の成長、収穫の喜びを共有し、コープの農場ファンづくりをすすめました。

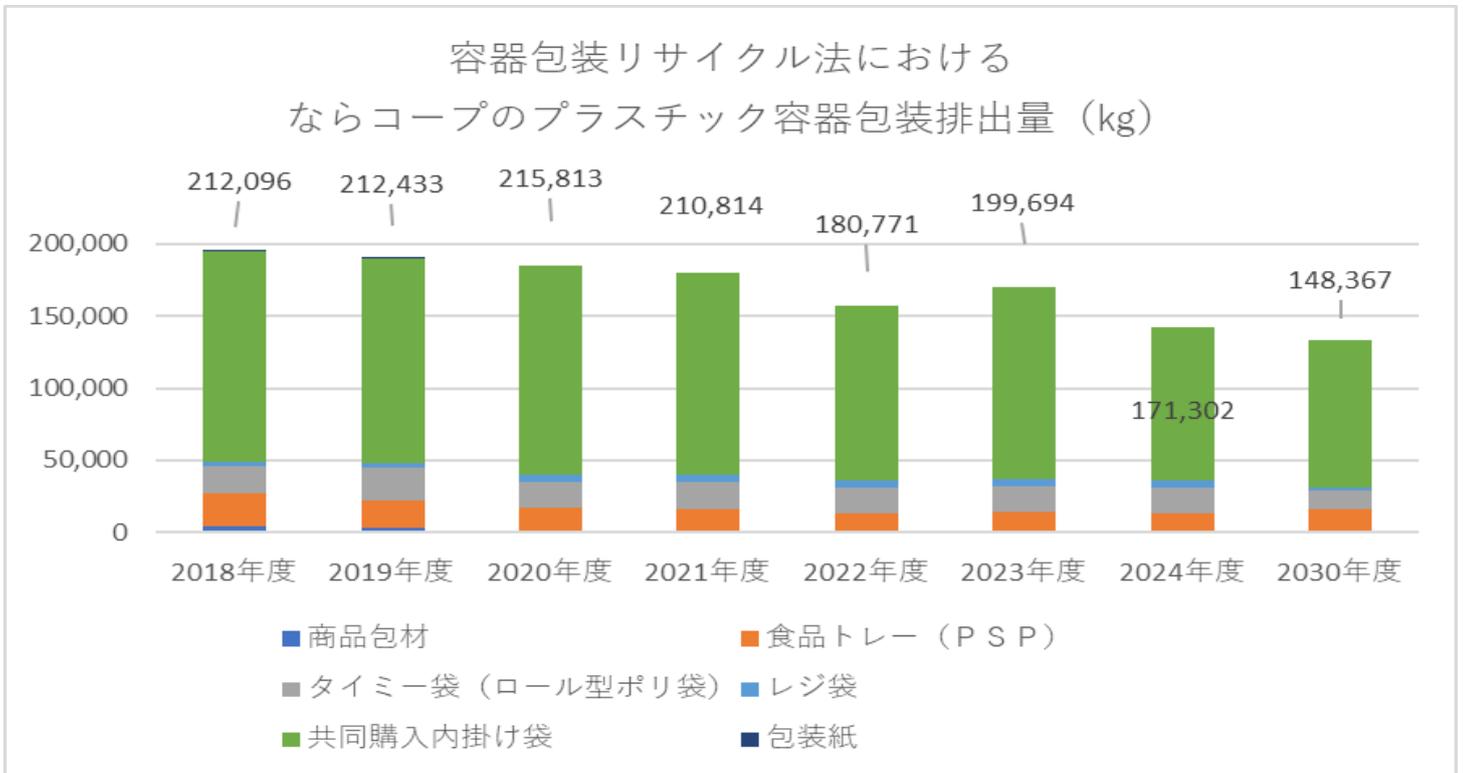


(2) 事業活動や組合員活動によるプラスチック容器包装削減の取り組み

(単位:kg)

区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2030年度
商品包材	4,271	3,419	6,308	4,514	1,784	1,725	1,518	2,990
食品トレー(PSP)	22,584	18,597	16,950	15,959	13,371	13,855	13,533	15,809
タイミー袋(ロール型ポリ袋)	18,846	22,429	18,516	19,017	17,981	17,801	17,231	13,192
農産加工センター包材他	17,039	22,445	24,359	26,268	21,004	27,757	27,757	11,927
レジ袋	3,289	3,320	4241	4895.77	5093	4922	5620	2,302
共同購入内掛け袋	145,924	142,022	145,244	140,160	120,702	133,484	105,429	102,147
包装紙	143	201	195	0	836	150	214	
合計	212,096	212,433	215,813	210,814	180,771	199,694	171,302	148,367

(表 8)



① 事業活動におけるプラスチック容器包装削減の取り組み

- 1) 事業活動におけるプラスチック容器包装排出量は 171,302kg (商品包材・共同購入内掛け袋(コープきんき使用分)が未集計のため暫定集計(前年 199,694kg(前年差△28,392 kg、前年比 85.7%)となりました。



ならコープのプラスチック容器包装排出量の約 70%は無店舗事業の内掛け袋ですが衛生面、利便性、コスト面で内掛け袋に代わる包材を採用するのは現時点では困難な状況です。2024 年 7 月から稼働したドライ棟では、ドライ商品の内掛け袋を使用しないセット方法を採用することから、通年稼働することでプラスチック容器包装の約 30%程度が削減できる予定です。**2024 年度は内掛け袋で概算 25.5 トン削減できました。**またこれまでドライコンテナに使用していたラベルシールは繰り返し使用可能なリライタブルラベルと変更となることから年間約 680 万枚のラベルシールが削減できることになり、環境負荷が低減できます。またドライ棟には太陽光発電、蓄電池の設置をおこないました。ドライ棟の 2 階には環境について学習できる部屋を計画しており、近隣の田原本町役場、川西町役場、三宅町役場に訪問し小学生の校外学習の見学先として活用いただけるように説明のための訪問をおこないました。**12 月 27 日**には田原本町長・川西町教育委員長をはじめ関係者が来訪いただき、お披露目をおこないました。



- 2) コープきんき事業連合や全国の生協と協同した取り組みでは、日本生活協同組合連合会(以下 日本生協連)が 2019 年 6 月、プラスチック包材へのコープ商品対応方針を策定しました。「コープ商品開発においてマイクロプラスチック<sup>4</sup>を使用しないこと」「2030 年までに、容器包材のプラスチック重量ベースで 2016 年対比 25%削減すること」「2030 年までに、再生プラスチックと植物由来素材プラスチックの活用を進め、使用率を合計で 50%に引き上げること」「2030 年までに、飲料等ストローはプラスチック以外の素材に 100%切り替えること」を決定し、プラスチック包材における環境負荷を減らす取り組み「リデュース(減らす)」「リサイクル(再資源化・再生)」「バイオマス(植物性由来素材の使用)」「リユース(繰り返し利用)」の 4 つの視点で取り組んでいます。



ならコープもこれらの取り組みに参加、環境配慮型商品の供給を積極的におこなっています。現在、容器包装にプラスチックを使用しているコープ商品は約 4,300 品目ありますが、再生プラスチック、植物由来プラスチック容器を使用した商品を拡大しています。全国で展開するミックスキャロットは紙パック化により 27tのプラスチック容器包装削減につながっています。またミックスキャロット等の野菜ジュースの多くはアルミ付き紙パックとなっていることから、店舗でのリサイクル回収が出来ていませんでしたが、日本テトラパック社と意見交換を進め 2024 年 4 月から店舗で実験回収を始め、2025 年度中には全店舗での回収が実現できるように進めていきます。また、環境や社会に配慮した主原料を使った商品に共通のロゴマークを付けてシリーズ化した商品「コープサステナブル」を 4 つのテーマ(海の豊かさを守る、森の資源を守る、Organic、リサイクル材使用)で展開しています。こうした商品を選んで使う“エシカル消費”が「持続可能(サステナブル)な」社会実現につながります。

② 組合員や職員とすすめたプラスチック削減の取り組み

1) ならコープの環境・エネルギーに関わる事業及び活動を審議し、具体化をすすめている「環境・エネルギー政策協議会」は定期的に「蜜ろうラップづくりワークショップ」を開催し、プラスチック容器包装削減について組合員と一緒に考えています。蜜ろうラップづくりワークショップはコープ委員会からも講師依頼があり、楽しみながらプラスチック問題について考える機会が広がっています。

2) ならコープでんきを知って知らせる活動をしているならコープでんきファン倶楽部世話人会には環境・エネルギー政策協議会メンバーも参加しています。北エリアフェスや、クールシェアの取り組みにて、啓発活動をおこなったり、ならコープでんきファン倶楽部通信を発行しています。

また、地球環境を守る取り組みでは、森や海の資源、生態系に配慮した原料で商品作りをおこなう FSC 認証<sup>5</sup>、MSC 認証<sup>6</sup>マーク付きの商品の案内をすすめました。ならコープは、2024 年度も日本生協連「コープの洗剤寄付キャンペーン」に参加、コープの代表的な商品であるセフター(洗剤)などで、供給点数 1 点につき 0.5 円を WWF ジャパンに寄付し、インドネシア領ボルネオ島での森林破壊を伴わない小規模農園による持続可能なパームヤシ生産のプロジェクトを応援することが出来ました。全国の生協全体では 2,749,066 円(2023 年 5 月 21 日~2024 年 5 月 20 日)を寄付しています。キャンペーン期間は 2024 年 5 月 21 日~2025 年 5 月 20 日まで通年で実施しています。

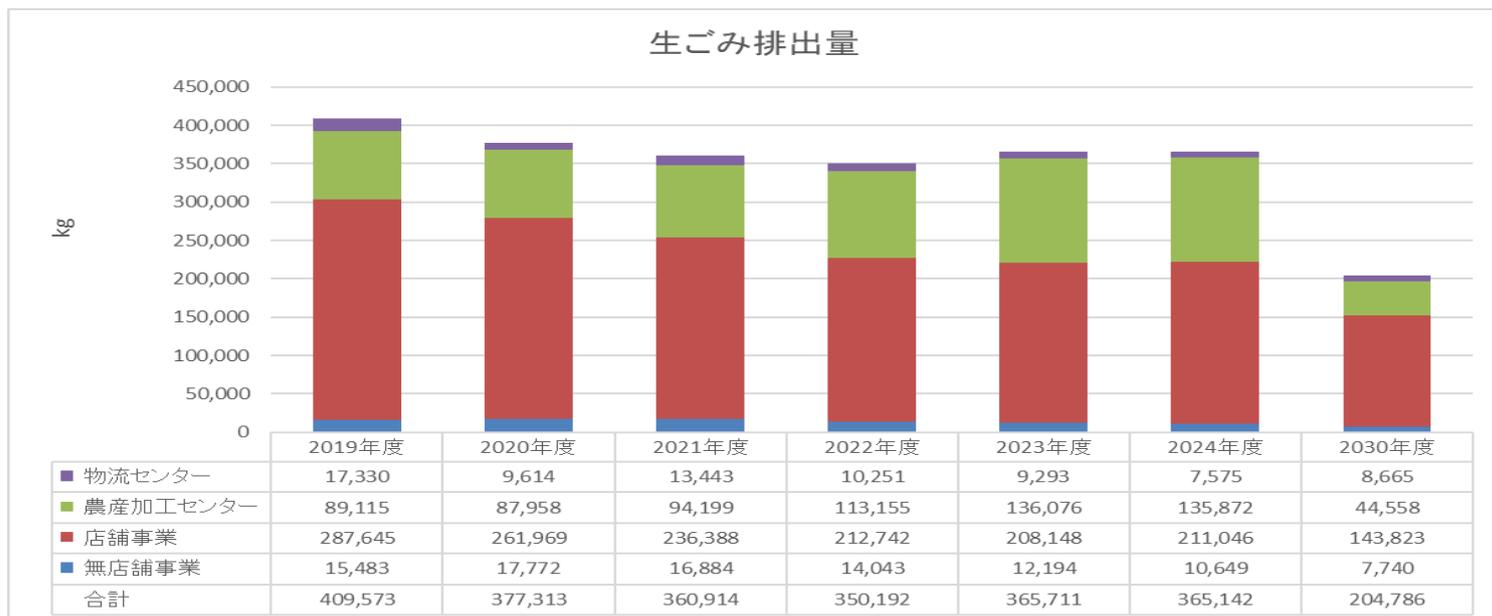


蜜ろうラップづくりワークショップ



### (3) 循環型社会の形成に向けた取り組み

#### ① 廃棄物削減の取り組み



(図 5)

2018年6月以降、店舗での廃棄物の現状を把握し(どの部門からどれだけの廃棄物が排出されているか)、問題解決と作業効率を高めるために環境Navi(廃棄物計量管理システム)を導入、計量結果のデータ化により、部門ごとの廃棄量が把握でき、改善しやすくなりました。GPR 向上、ロス率改善に取り組むことで廃棄物削減に取り組んでいます。日配商品の管理期限の延長(賞味期限当日まで販売)、自動発注システムなど発注精度の向上、在庫管理精度の向上などによって廃棄物を減少させることができ、生ごみ排出量は365,142kg(前年365,711kg、前年差569kg)となりました。

- 1) 食品ロス削減は店舗の経営効率向上に貢献していますが、GPR改善、廃棄ロス金額削減だけでは廃棄重量削減につながりにくくなってきており、廃棄量に視点を置いた取り組みが課題となっています。

農林水産省の「食品ロス削減のための消費者啓発に取り組む小売・外食事業者、地方自治体の最終的な応募者の公表」にあわせ10月の食品ロス削減月間に向けて、ポスターなど普及啓発資材を活用した消費者に対する食品ロス削減のための啓発活動を行う小売・外食事業者として、全店舗でポスター掲示をおこないました。



店舗の食品ロスコーナー

- 2) 食品ロス削減の取り組みでは、無店舗事業のキャンセル品や予備品などの在庫品、店舗の管理期限切れ商品のほかに、フードドライブ活動を実施しています。寄せられた食品は、2024年1月から「もったいないNARA」へ提供しています。「もったいないNARA」から県内のフードバンク団体や社会福祉協議会へ提供し、そこから地域の子ども食堂や福祉施設、食材を必要としている人びとへお渡ししています。フードドライブ活動では、食品だけではなく未使用の文房具も受付しており、2024年度は、1,751人の組合員から

食品 3,275kg、文房具 438kg が寄せられました。生鮮品などのキャンセル品については職員への内部販売をおこない、生ごみとして廃棄する量を減少させています。

- 3) 生ごみリサイクルでは生ごみ排出量は 365,142kg(前年 365,711kg、前年差 569kg)に対してリサイクル量が 272,755 kg(前年 274,796kg)となり、再生利用率は 74.7%(前年 75.1%)となりました(表 9)。2021 年度末から農産加工センターで排出する生ごみをたい肥として活用できるようになっています。また、(株)ハートフルコープならに委託してリサイクルを実施、2024 年度は生ごみ 21,618kg(前年 23,510kg)を処理して 2,162kg(前年 2,351kg)の乾燥残渣を製造し五条事業所で活用されています。今後生ごみの肥料以外の活用方法として、発電の資源としての取り組みを検討し、新たな電源開発として、ならコープでんきの電源として運用できないか調査、研究し 2025 年度からの実現を目指しています。

(表 9)

生ごみ排出量	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度	
	生ごみ排出量	リサイクル										
無店舗事業	15,483		17,772		16,884		14,043		12,194		10,649	
店舗事業	287,645	257,619	261,969	238,580	236,388	213,606	212,742	190,041	208,148	198,276	211,046	192,685
農産加工センター	89,115	24,640	87,958	27,200	94,199	40,545	113,155	81,680	136,076	76,520	135,872	80,070
物流センター	17,330		9,614		13,443		10,251		9,293		7,575	
合計	409,573	282,259	377,313	265,780	360,914	254,151	350,192	271,721	365,711	274,796	365,142	272,755
リサイクル率(%)		68.9		70.4		70.4		77.6		75.1		74.7

品目	単位(kg)														
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ダンボール	493,900	454,390	453,860	429,660	403,220	351,770	710,940	834,100	1,377,460	1,395,721	1,511,919	1,497,682	1,292,570	1,275,005	1,436,316
前年比	96.4%	92.0%	99.9%	94.7%	93.8%	87.2%	202.1%	117.3%	165.1%	101.3%	108.3%	99.1%	86.3%	98.6%	112.7%
OCR・古紙	117,550	125,530	116,120	127,240	143,460	129,500	141,730	124,200	131,530	131,940	120,980	110,680	109,420	97,290	92,420
前年比	98.8%	106.8%	92.5%	109.6%	112.7%	90.3%	109.4%	87.6%	105.9%	100.3%	91.7%	91.5%	98.9%	88.9%	95.0%
PPバンド	995	1,625	1,645	1,665	2,055	1,875	3,136	2,385	2,643	2,985	3,902	3,742	3,831	3,761	4,640
前年比	98.7%	163.3%	101.2%	101.2%	123.4%	91.2%	167.3%	76.1%	110.8%	112.9%	130.7%	95.9%	102.4%	98.2%	123.4%
ペットリング/ ペットボトルキャップ	154	150	170	1,250	1,682	2,403	2,947	4,742	4,444	6,357	6,722	6,707	7,390	8,564	9,808
前年比	95.4%	97.4%	113.3%	735.3%	134.6%	142.9%	122.6%	160.9%	93.7%	143.0%	105.7%	99.8%	110.2%	115.9%	114.5%
発泡スチロール	16,231	16,020	16,376	19,658	28,142	39,358	43,032	27,962	31,336	37,503	39,333	51,589	42,349	43,559	39,832
前年比	112.0%	98.7%	102.2%	120.0%	143.2%	139.9%	109.3%	65.0%	112.1%	119.7%	104.9%	131.2%	82.1%	102.9%	91.4%
牛乳パック	51,040	48,790	45,800	40,470	40,420	38,640	40,050	38,890	40,180	39,420	39,190	39,920	38,640	40,270	50,780
前年比	96.4%	95.6%	93.9%	88.4%	99.9%	95.6%	103.6%	97.1%	103.3%	98.1%	99.4%	101.9%	96.8%	104.2%	126.1%
空き缶	60,890	58,050	57,385	54,490	51,720	50,110	42,890	46,027	48,037	48,707	52,945	54,757	55,256	54,574	55,426
前年比	98.8%	95.3%	98.9%	95.0%	94.9%	96.9%	85.6%	107.3%	104.4%	101.4%	108.7%	103.4%	100.9%	98.8%	101.6%
PSTレー	32,582	26,882	22,608	19,608	20,536	18,832	16,584	17,648	18,000	17,592	15,928	15,776	16,424	13,855	13,533
前年比	98.7%	82.5%	84.1%	86.7%	104.7%	91.7%	88.1%	106.4%	102.0%	97.7%	90.5%	99.0%	104.1%	84.4%	97.7%
PETボトル	97,143	92,576	100,734	96,390	87,350	92,060	97,593	86,200	112,410	107,320	117,070	132,304	132,370	132,330	147,040
前年比	95.4%	95.3%	108.8%	95.7%	90.6%	105.4%	106.0%	88.3%	130.4%	95.5%	109.1%	113.0%	100.0%	100.0%	111.1%
卵パック	29,669	23,391	23,795	22,365	21,980	19,395	20,175	11,370	16,525	16,888	21,240	19,224	16,680	10,319	18,712
前年比	112.0%	78.8%	101.7%	94.0%	98.3%	88.2%	104.0%	56.4%	145.3%	102.2%	125.8%	90.5%	86.8%	61.9%	181.3%
共同購入カタログ	2,599,175	2,700,830	2,738,710	3,039,625	3,079,135	3,137,220	3,262,990	3,266,970	3,559,200	3,185,220	2,731,010	2,627,440	2,308,910	2,313,910	2,201,620
前年比	103.4%	103.9%	101.4%	111.0%	101.3%	101.9%	104.0%	100.1%	108.9%	89.5%	85.7%	96.2%	87.9%	100.2%	95.1%
内掛け袋	30,896	33,035	27,165	26,025	26,613	31,128	31,862	26,109	26,694	26,849	28,253	26,433	22,273	23,643	23,143
前年比	127.4%	106.9%	82.2%	95.8%	102.3%	117.0%	102.4%	81.9%	102.2%	100.6%	105.2%	93.6%	84.3%	106.2%	97.9%
新聞古紙(kg)						27,000	80,530	78,890	74,580	74,760	63,350	64,750	56,740	51,610	50,780
前年比							298.3%	98.0%	94.5%	100.2%	84.7%	102.2%	87.6%	91.0%	98.4%
透明な容器・蓋												1,091	8,315	18,593	13,129
													762.1%	223.6%	70.6%

② 再資源化の取り組み～リサイクル～

(表 10)

ならコープでは使用する容器包装をできるだけ減らすとともに、リサイクルのしくみが確立している品目については、店舗や配達を通じて組合員から回収、物流センター内にあるリサイクル施設にて分別、選別、圧縮したのちリサイクル事業者に売却しています。

- 1) 2021 年度からお弁当の蓋やサラダのトレーなどに使用される透明な容器・蓋の回収を全店舗で開始しました。リサイクル開始時に組合員が店頭でデモンストレーションと丁寧な説明をおこなったこともあり、順調にリサイクルが進んでいます。回収数量は増えていますが、リサイクルできない透明な容器、蓋以外の持ち込みも増えてきており次年度はあらためて機関紙「あをがき」での広報や店頭ポップの作成、店頭での啓発もおこなっていくことで異物の混入が無くなるようにすすめていきます。



透明な容器・蓋のリサイクル

- 2) ならコープは 1982 年からマイバッグ持参運動を展開、組合員に丈夫な買物袋を提供することで使い捨てレジ袋を削減するとともに、レジ袋使用の際には 1 枚につき 5 円の負担をお願いし、「環境資金」として環境活動に活用してきました。2020 年を機に段階的にレジ袋使用枚数が増え、来店人数に対してマイバッグ持参率が下がっています。2024 年度のマイバッグ持参率は 93.3%となりました。2008 年以来過去最低の数字であった昨年と比べ、今回の 93.3%という数値はコープいまご(94.3%)・コープ真美ヶ丘(94.1%)の取り組みによる部分が大きいと考えられます。またコープたつたがわの減少傾向には注視が必要です。レジ袋使用枚数が増えるのは内的要因(組合員の意識、利用者の入れ替わり)です。各店舗でのマイバッグ持参運動に向けて、今一度啓発と推進の強化をすすめていきます。
- 3) 無店舗事業で使用する商品案内カタログが多すぎるという意見を組合員や総代からあり、無店舗事業の重要な課題です。e フレンズでもくらしのパートナー(洗剤などの日用品カタログ)やスクロール(衣料品カタログ)のお届けを選択できる仕組みを拡大し、商品案内カタログすべての停止も可能になりました。また帳合冊子数の削減、媒体チラシの合冊を実施するなど削減に努めています。広報媒体は組合員の利便性に配慮して、紙媒体を残しながらも WEB 媒体への移行をすすめており、少しずつですが成果がでてきています。また、これまで配達時の商品荷下ろし帳票や組合員情報などは紙媒体を活用していましたが、スマートフォンに搭載した商品荷下ろし情報をもとに商品配達を実施することで紙帳票の削減と組合員サービス向上を実現しました

### 3. 誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加する取り組み

私たちは、誰一人取り残さず、安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します。自治体や諸団体との連携を大切にしつつ、地域の見守り、移動販売や配食事業など、生協の事業や活動のインフラを活用し、地域における役割発揮を進めます。

#### 《関連するSDGsの主たる目標》



#### 目標11(持続可能な都市)

包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。

#### 《関連するSDGsの目標》



#### ① 吉野共生プロジェクトの推進

「吉野の森と水を守る」ための取り組みとして、奈良県森林組合連合会、JAならけん、ならコープが連携し、里山を再生する活動をおこなっています。ならコープで扱う「奈良県産ひのひかり」の利用1kgにつきJAならけんと0.5円ずつ計1円を「吉野の森と水を守るための募金」として積み立て、植樹や環境保全活動の費用に充てています。2024年度の組合員への「奈良県産ひのひかり」供給重量については未確定となります。

募金の取り組みは2009年から始まり2023年までの累計で1,451万円(ならコープ募金額は725万円)となりました。



吉野の森と水を守るための募金パンフレット

#### ② 地域の方々と取り組む環境保全活動の取り組み

1) ならコープのアースデーは、環境問題について考え、行動する日として1990年から開催しています。地球環境問題が深刻化する中で、人々の環境への意識を高めようとアメリカではじまったアースデー。今年度のアースデーは新型コロナウイルス感染症の予防を徹底して、多くの方が環境問題を意識し楽しみながら行動できるように、6つの企画を計画しました。また各エリアでもアースデーの企画を実施しました。全企画ののべ参加人数は4,596人となり、単独でのアースデー開催としては最大人数の参加結集となりました。「あなたの力で地球を守ろう」をテーマに組合員の方に参加してもらえる内容を下記の通り実施しました。

2) 春休み期間中に、店舗でのリサイクルコーナーで集めたものをどのように分別し、リサイクル業者にもって行ってもらっているのかを、その分別の様子が知ってもらうバス見学会を実施しました。見学後、集会所で学習をおこない、うちわづくりをおこないました。



- 3) アルミ付き紙パックの回収を実験するにあたって、学習会を実施しました。参加者にはミックスキャロットや豆乳飲料などの商品を持ってきてもらい、日本テトラパック社の和喜多氏を呼び、学習会をおこないました。参加者にはミックスキャロットをプレゼントし、回収のキックオフとしました。



- 4) アースデイ奈良が4月22日(日)に奈良市はぐくみセンターにて実施され、パネル展示として出展。デコ活チャレンジ宣言の項目をアンケートし、啓発活動をおこなった。奈良市はぐくみセンターに400名の来訪があり、ならコープのブースには50名程度来られ、対応しました。
- 5) ならコープ2030環境ビジョンの内容がどのような進捗になっているか、家庭のできるデコ活の取り組みをまとめ実行委員会メンバーが声を入れ動画を作成し、買い物中の組合員に啓発できるよう、4月期間中店舗のサイネージで定期的に流しました。
- 6) デコ活チャレンジ宣言を4月8日(月)～4月26日(金)の期間中実施し、無店舗利用の組合員に、環境に配慮した取り組みにチャレンジしてもらい、地球を守るための行動につなげました。5項目について、「はい・いいえ」で答えられる設問を用意し、解答してもらいました。取り組み期間の前週に、各事業所に意義と内容説明をアースデー実行委員会メンバーがおこないました。支所チラシやもぎたて情報便でもお知らせし、配達途中での声掛けから、4,501名にデコ活チャレンジが広がりました。
- 7) 2006年度から進めてきた「菜の花エコプロジェクト」は資源循環型社会を目指し、菜の花を育て、種を取り、菜種油をしぼって、食べたり燃料にしたりするところまでのリサイクルを追うプロジェクトになります。2019年度までは生駒市西畑で「菜の花クラブ」として活動していましたが、ならコープの配達トラックのバイオディーゼルエンジンからの撤退に伴い(故障が多く修理の環境負荷が大きい)2019年度で終了を迎えました。その後ならっぴクラブ～チーム西畑～として菜の花の栽培だけでなく、よりいろいろな活動ができるように再始動しています。2020～2022年度は、全世界的な新型コロナウイルス感染症の蔓延により一時活動を控えたこともありましたが、組合員活動のガイドラインの中で、出来るだけ実施しました。2024年度も野外活動自然体験、生物多様性、伝統的な菜種・収穫方法を学ぶことが出来ています。
- 8) 環境月間には組合員や地域の方々とはさまざまな学習をすすめました。



- (ア) 家族で社会見学！天ぷら油でジェット機を飛ばす？レボインターナショナル見学会

ならコープの店舗から出る使用済み食用油は、株式会社レボインターナショナルを通じてバイオディーゼル燃料に精製し、軽油代替燃料や航空代替燃料として利用されています。また、「Fry to Fly Project」に参加し、家庭や店舗などで発生する廃食用油という国内資源を原料とする SAF で、航空機が飛ぶ世界を実現できるよう、応援・参加しています。また、組合員ボランティアによ



る使用済みてんぷら油回収のメンバーからも見学を希望する声が多く、環境月間中の使用済みてんぷら油回収時にお知らせをおこない、夏休み中の社会見学バス企画として実施しました。

(イ) 環境測定活動は 1992 年から開催しており、2024 年で 33 回目となり、例年同様 300 名を上限に奈良県内の大気・酸性雨・河川の水質について組合員の協力を得て調査しました。12市・15 町村から 256 人(昨年 265 人)の申し込みがあり、そのうち 171 人(昨年 204 人)の報告書の提出がありました。大気調査では前回2か所上回った環境基準を全件下回った結果となりました。酸性雨調査では pH4.0以下の計測結果は 1 か所に減り、平均値が改善しました。河川水質は採取地が増えたこともあり、平均数値は悪化、昨年より汚れているという結果となっています。7月より一部取引先様と連絡がつかず、報告集が発送できていません。

## 9) 組合員のつどい

毎年秋に組合員と職員がテーマを決めて学習する組合員のつどいでは今年のテーマ「みんなで、はじめよう！防災・減災～あなたの備えは大丈夫？～」を念頭におき、以下の企画を開催しました。

### (ア)「太陽光発電所バス見学会」

防災・減災に係る内容として、太陽光発電所バス見学会を実施し、9名の参加があった。防災・減災のために、地域に根ざしたならコープの拠点に何ができるのか、エネルギーの地産地消をすすめ自律分散型発電システムを備える吉野事業所と、災害・停電時にエネルギー供給ができる V2H システムを備えている下市ステーションを見学し、複合型施設『KITO FOREST MARKET SHIMOICHI』で昼食休憩をとりながら、組合員のつどい学習・意見交流をおこないました。

### (イ) 蓄電池キッチン

防災・減災に係る内容として、蓄電池を使用する想定で、お湯だけのみのできる調理実習をおこなった。11月22日(金)、集合コープなんごう組合員ひろばにて実施し、23名参加がありました。蓄電池は災害時にどのように活用できるのか、実際の発災時に携帯電話などの通信機器や、お湯が沸かせる状況というのが、役に立つケースを確認しました。再エネ協同基金所有の蓄電池や本部にある蓄電池を借り、再エネ電源で調理実習をおこない、日頃の備えについて考える機会とし、(株)CENの蓄電池のリースプランについても案内しました。

## 10) 2005 年度からレジ袋代金の一部を環境保全活動に取り組む団体への助成金として活用しています。

2024 年度は 23 団体から申請が有り、総額 81 万円を助成しました。2005 年からの 19 年間累計では延べ 358 団体、計 15,745,601 円を助成しました。5月に23年度環境保全活動助成団体報告集を発刊し、25年2月には24年度環境保全活動助成団体交流会を開催しました。16 団体 23 名が参加し、パネル展示をお



こない職員からの助成の概要と展望の話と、「あなたにとって環境とは？」を題にグループセッションをおこないました。また、福西専務理事にならコープの環境活動の変遷について講演してもらい、感想交流をおこないました。

- 11) コープ会通信では、年間3回環境・エネルギー推進室にて寄稿をおこないました。デコ活、リサイクル、地産地消の電気について発信し、それぞれ組合員への啓発をおこないました。

### ③ 自然災害等ヘリスク対応

- 1) 奈良県とならコープは県民の緊急時飲料水の寄託契約を締結しています。(株)ハートフルコープよしのが製造する奈良桜よしの天然水を緊急時飲料水として一定量を保管管理しながら事業活動で使用していくローリングストック<sup>7</sup>の手法をとることで廃棄や保管場所問題に対応、奈良県の防災に協力しています。
- 2) 職員には県内道路の冠水ポイントを明示し配達や出退勤時の水害リスクへの備えを啓発、事業所毎に脆弱点を見出すことでBCP<sup>8</sup>の一律的な決め事からの脱却が生まれつつあります。ならコープでは電気自動車を54台(ハイブリッド車含む)、燃料電池車(水素自動車)1台を保有、災害時に発生する停電の際には必要とされる地域へ電気を移動させることが可能です。
- 3) 近年、自然災害による停電時の電気の重要性が共通認識になりつつあります。そのことから2019年度になら一歩無店舗事業の配送委託先である一般社団法人かわかみらいふ(川上村)に設置した「災害時の電源としての蓄電システム」を公民館等へ設置することを各自治体に提案しています。

### ④ 行政との取り組み

#### 1) 田原本町

2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ宣言」をしている田原本町と2022年8月に包括連携協定を締結しました。田原本町とは2022年8月に締結した包括連携協定に基づき、2023年12月から田原本町役場等でペットボトルキャップの回収連携を始めました。2024年度は段ボール37箱を回収しリサイクルが進みました。



田原本町役場でのペットボトルキャップ回収

#### 2) 奈良市

2023年度にゼロカーボンシティ宣言をする準備をすすめている奈良市が、環境省が公募した「地域脱炭素移行・再エネ推進事業実施計画(重点対策加速化事業)」に応募、採用される運びとなり、「令和5年度奈良市公共施設再生可能エネルギー実装事業 PPA 事業者等」を公募し、(株)CEN・大和リース(株)奈良支店が共同企業体として、受注選定され2024年度内には市内公共施設の8カ所に太陽光発電と蓄電池の設置が終わりました。余剰電力については(株)CWSで買い取りをおこない、ならコープでんきとして供給する予定です。

#### 3) 川上村

ならコープは2017年に豊富な水資源を有する川上村と再生可能エネルギーの一層の拡大や村民生活支援を目的とした包括連携協定締結しており、当協定に基づき川上村の再生可能エネルギーの促進や脱炭素計画づくりのために(株)CWSより「地域活性化起業人制度」を活用した人材面での協力をおこないました。川上村での再エネ導入の可能性の検討、ならコープの2030年環境ビジョンの目

的である、ならコープグループ全体での CO<sub>2</sub>排出量を削減するという目標達成の具現化のため、小水力発電(伯母谷川)などの再生可能エネルギーの調査をおこなっています。

#### 4) 環境省

環境省のデコ活推進協議会が呼びかけるデコ活(脱炭素につながる豊かなくらしを実現する国民運動)をおこなうとして、ならコープは 2023 年 12 月 21 日(木)にデコ活宣言をおこないました。環境省地球環境局デコ活応援隊では、国民運動としてのデコ活推進のため、組織(企業・自治体・団体)、個人単位での「デコ活宣言」を呼びかけています。地域・社会に向けてならコープの脱炭素の取り組みを広く伝えることや今回の取り組みを通じて組合員に向けて消費活動の在り方を推進するきっかけとして、アースデー2024in なら「デコ活チャレンジ宣言」にて、啓発しました。

#### ⑤ 地域の民間、任意団体との取り組み

- 1) NPO 法人天理市環境市民ネットワーク天理は 2022 年から地域で環境を守れる人材の育成を目指して、「まほろばエコロジー講座」を開催しています。昨年に引き続き環境エネルギー推進室へ講師依頼があり、ならコープの環境の取り組みについて講演をおこないました。

第13次中計アクションプラン

該当する対策	2030年環境ビジョン 数値目標	実績 (基準年)	目標 (2030年)	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	第13次中計の取り組み
地球温暖化対策	CO <sub>2</sub> 排出量 50%削減 (2050年に実質ゼロ)	13,566 t-CO <sub>2</sub> (2013年度)	6,783 t-CO <sub>2</sub>	9,960 t-CO <sub>2</sub>	9,840 t-CO <sub>2</sub>	9,500 t-CO <sub>2</sub>	9,000 t-CO <sub>2</sub>	8,140 t-CO <sub>2</sub>	【中計目標 40%削減】(CO <sub>2</sub> 排出係数 2020年実績 0.270t-CO <sub>2</sub> 据置) 《化石燃料削減》 宅配推進部_全車両 EV 化 (移動店舗除く) (総数 32 台 (移動店舗 5、タ宅・あったか便 (EV14・ガソリン 13)) 無店舗事業_EVトラック 20 台入替 (22年_5台、23年_5台、24年_10台) 無店舗事業_全営業車両 EV 化 (軽トラック除く) (総数 64 台 (軽トラック 14、営業 (EV22、ガソリン 28)) 総務企画部_全車両環境対応化 (買い物バス 1、農産集荷 5 除く) (総数 8 台 (EV3、PHV1 台、水素 1、ガソリン 3、)) 物流センター_全車両 EV 化とバル物流との往復燃料削減 (総数 2 台 (ガソリン 2)) 《電気使用量削減》 ・改装時の省エネ設備導入による電気使用量削減 (コープ学園前、ディアーズコープたつたがわ、コープおしくま) ・自家消費型太陽光発電設備設置による CO <sub>2</sub> ゼロの電気使用 (旧農産加工センター、新ドライ棟、コープ学園前他)
	再生可能エネルギー発電量を 1,300 万 kWh 「つくる」	57 万 kWh (2013 年度)	1,300 万 kWh	629 万 kWh	700 万 kWh	750 万 kWh	850 万 kWh	1,000 万 kWh	《㈱コープエナジーならによる発電事業》 ・21年_C学園前(249kW)、旧農産加工センター (131kW) ・24年_物流センター (新ドライ棟 (726kW)) ・小水力発電 1 か所 《市町村との防災目的の蓄電システム導入による発電量増》 ・22年以降_1市町村 10か所×20kW/毎年 1市町村
	電気使用量を 1,500 万 kWh まで「減らす」	1,674 万 kWh (2013 年度)	1,500 万 kWh	1,716 万 kWh	1,629 万 kWh	1,550 万 kWh	1,550 万 kWh	1,500 万 kWh	《店舗改装・リニューアル》 21年_C学園前改装▲15万 kWh、Cみみなし▲11万 kWh 22年_DC たつたがわ改装▲20万 kWh (年間▲39万 kWh)、C学園前効果 23年_Cおしくま改装▲25万 kWh (年間▲50万 kWh)、DC たつた効果 24年_物流センター (新ドライ棟)稼働+100万 Wh、バル物流▲130万 ※EVトラックの電気使用量増は省エネ・再エネ利用の取り組みと相殺する
	ならコープでんき CO <sub>2</sub> 排出係数を「減らす」	0.522kg-CO <sub>2</sub> (2013 年)	0.170 kg-CO <sub>2</sub>	0.314 kg-CO <sub>2</sub>	0.270 kg-CO <sub>2</sub>	0.270 kg-CO <sub>2</sub>	0.270 kg-CO <sub>2</sub>	0.270 kg-CO <sub>2</sub>	22年_小又川小水力発電所再稼働など再エネ電源拡大 エネサーブとの電源構成協議 CO <sub>2</sub> ゼロでんき開発を検討
	組合員が「つくる」再生可能エネルギー調達量を増やすエネルギーの地産地消	0kWh (2013 年)	200 万 kWh	24 万 kWh	70 万 kWh	150 万 kWh	250 万 kWh	350 万 kWh	組合員から再エネ電源を調達する。エネルギーをみんなで分け合う社会の実現
	ならコープでんき利用数増、家庭排出 CO <sub>2</sub> 削減	0 件 (2013 年)	12,000 件	4,714 件	7,000 件	8,000 件	9,000 件	10,000 件	
	奈良県の 1 人あたり CO <sub>2</sub> 排出量の削減	5.2t-CO <sub>2</sub> (2013 年)	2013 年度より 低減する	未集計					

該当する対策	2030年環境ビジョン 数値目標	実績 (基準年)	目標 (2030年)	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	トピックス
廃棄物削減	食品廃棄物を 50%削減	409,573kg (2019 年)	204,786kg	368,616kg	331,754kg	315,166kg	299,407kg	286,701kg	【中計目標 30%削減】 刺身等の添え物削減 管理期限変更による廃棄量削減 発注等商品管理における売り切り フードバンク寄付仕組化、冷凍供給商品の研究 窒素充填など消費期限延長の取り組み 農産廃棄量の削減、農産加工センター廃棄量削減、再資源化 値引きロス商品の新たな販売方法
	プラスチック容器包装使用量を 30%削減	209,818kg (2018 年)	146,872kg	未集計	200,000kg	200,000kg	200,000kg	188,836 kg	【中計目標 10%削減】 無店舗事業の打掛袋削減の研究の開始 (洗浄、形状変更、素材変更) 物流センター (新ドライ棟)稼働によるドライ・パン・日用品同梱化 青コンテナ洗浄による打掛袋使用数削減 (紙シートでの代用など) レジ袋紙化、 レジ配布物の脱プラ化 (スプーン、ストロー、箸) 農産加工センター加工のサラダ等へのプラ使用量減、再生プラ使用増

年	月	ならコープ環境活動のあゆみ
1978	11	合成洗剤に含まれるトリポリリン酸塩等による赤潮が社会問題化する中で、「奈良の河川と瀬戸内海の汚染を防ぐ洗剤対策の一層の強化を求める請願」署名(57,411人)
1979	1	同請願署名が県議会で採択
1982	12	コープ六条開設準備中に組合員の提案による「マイバッグ(お買い物袋)」が実現 その後全店に広がった
1989	4	「CO-OP・EVコープ低公害車開発株式会社」に参画
1990	5	「アース・デー・スプリング in なら '90(物流センターにてパネルディスカッション)」開催(第1回)
	7	第1回牛乳パック回収(カートンクラブによる集団回収)
	11	物流センターに発泡スチロール溶融機を導入
1991	5	総代会で「事業高の1000分の1を環境資金として運用」することが確認され、運用を開始
	11	「ならコープ環境基本政策」策定
1992	5	ブラジルで開催された「環境と開発に関する国際連合会議(地球サミット)」に組合員と役員の3名を代表派遣
		河川の水質、大気汚染、酸性雨を測る環境測定活動の開始
	10	全国リサイクル推進協議会会長賞受賞
1993	3	空き缶回収機くうかん鳥を全店設置
	5	第1回PETボトル実験回収
1994	2	アルミ缶回収協力者賞(筆頭表彰を受賞)
	7	回収トレーを再生した1.3kg入り卵容器「まもるくん」を開発
	8	北部支所と香芝支所に、NOX(窒素酸化物)の排出が少ないCO-OP・EVコープ低公害車開発株式会社のLPG(液化石油ガス)トラックを計2台導入
1996	3	中央環境審議会「環境基本計画公開ヒアリング」にならコープの活動と意見を発表
1997	2	共同購入の産直たまごパック10個入りのPETを原料にした仕様に変更
	6	環境庁の「地球環境功労者表彰」受賞
	7	ISOに準じたマネジメントの構築を目指しリサイクル・環境マネジメント推進委員会発足
	8	NPOや事業者等奈良県の30団体が加入する奈良環境県民フォーラムが発足・参画。
	11	PETボトル中間処理施設をコープセンターに設置
	12	地球温暖化防止京都会議(COP3)NGO集会に参加
1998	7	店舗での塩ビ系食品ラップの供給中止(1990年業務用ラップ、1998年2月共同購入ではすでに中止、ならコープでの塩ビ系食品ラップの取扱いは全面中止)
	10	奈良県環境県民フォーラムが主催し、ならマイバックキャンペーンを実施、ならコープは「マイかご」も導入
	11	全店に「マイかご」導入

年	月	ならコープ環境活動のあゆみ
1999	11	回収した商品カタログを商品カタログに再生するクローズドリサイクルシステムを開始(共同購入カタログのリサイクル)。
2000	7	奈良県環境保全功労賞を受賞
2001	1	食品リサイクル法 4 月施行対応として、独自に生ごみを堆肥化する「生ごみ処理機」をコープ六条に導入
	12	環境基本政策策定から 10 年を経過し、新環境政策を策定
2003	3	ISO14001 認証取得(環境管理の国際規格)
	5	無店舗事業の内掛袋のリサイクルを全支所でスタート
	7	コープきんき事業連合創立総会
	10	リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞受賞
2004	3	あすなら苑太陽光発電開始
	8	コープ学園前に農産直売所を開設し、地産地消による環境負荷低減の取り組みを開始
	9	太陽光発電幹線事業開始
2005	5	環境活動に取り組む NPO や団体を支援するため、環境保全活動助成金を開始
2006	6	ならコープの配達トラックのバイオディーゼル燃料(BDF)による実験走行
	8	菜種から搾油した油を回収し、廃食油を原料にバイオ燃料を精製する菜の花エコプロジェクトの取り組みをスタート
	11	ISO9001:2000 認証取得
2007	3	生駒市環境地域協議会が設立し参画
	7	西奈良支所にバイオディーゼル給油タンクとトラックを 5 台導入
	9	店舗のレジ袋代金のレジ精算方式を全店導入
	11	NPO が選ぶ CANJAPAN 第 1 回 CSR プラス大賞の「地域の CSR 大賞」受賞
	12	西奈良支所に太陽光発電を設置
2008	4	組合員ボランティアによる廃食油の定期回収が始まる(ディアーズコープたつたがわ)
		電力削減プログラム「見えタロー」をディアーズコープいこま・コープ学園前に導入(以後、コープおしくま・コープたかだ・ディアーズコープたつたがわに導入)
	9	コープたかだに農産直売所が開設され、全店に開設
	10	奈良市地球温暖化対策地域協議会が設立し参画
2009	1	生駒市環境地域協議会「ECOMA」と「レジ袋削減に向けた取り組みに関する協定」締結
	11	JA ならけんとならコープで、県内産ひのひかり 1kg につき 1 円を積み立て、植林等に活用する「吉野の森と水を守るための募金」創設
		大和高田市地球温暖化対策地域協議会が設立し参画

年	月	ならコープ環境活動のあゆみ
	12	デンマークで開催された国連気候変動枠組み条約第 15 回締約国会議(COP15)に組合員代表を派遣
2010	1	経済産業省公募事業の「ロボットによる多種類プラスチック分別回収リサイクル装置開発と COOP での実証」にディアーズコープいこまで実験。
	3	「吉野の森と水を守るための募金」により吉野町の脳天大神所有地に広葉樹 160 本を植樹
	7	コープみみなし天井照明を約 500 本 LED 照明に入れ替え実施
	10	生物多様性年並びに COP10 の名古屋開催にあたり、学習や里山観察会を実施
		コープ学園前で使用済み天ぷら油の定期回収が開始され、全店舗で回収実施
2011	6	ディアーズコープたつたがわ天井照明約 840 本を LED 照明に入れ替え実施
	7	コープ朱雀天井照明約 660 本を LED 照明に入れ替え実施
	8	恋の窪本部の蛍光灯約 270 本を LED 照明に入れ替え実施
2012	2	2020 年に向けたならコープのあらたな環境政策の策定
	7	物流センターへの太陽光発電設備の設置(385kW)。既存の自家発電設備と連携したハイブリッド発電システムとして大規模災害の電力崩壊リスクの軽減
	9	安心して住める福島を取り戻すための署名 12,836 筆を日本生協連に送付
		ディアーズコープいこま、コープ学園前の LED 照明に入れ替え
	6	食べる“なら”大和 金胡麻入りくろずドレッシングの開発
	11	産直たまごピンクへの飼料米の飼料投与(2ヶ月)
	10	コープみみなし、コープ真実ヶ丘の食品残渣を肥料化する資源循環型農業に取り組んでいる(株)サムズファームとの取引開始
		無店舗事業でのバイオディーゼル車両 5 台増車し、30 台での運用
	11	(株)CWS天理本社に太陽光発電設備(95kW)を設置
		新環境政策紙芝居を活用した出前学習の実施。
	6	あすなら塾で久隆浩近畿大学教授を講師に「2020 年に向けて私たちに何ができるの？」を開催。
7	吉野の森と水を守るための募金を活用し、大淀町に 4 種類の広葉樹 80 本を植樹、105 人が参加。	
2013	2	中エリアで奈良県産金ごま入り大和のあられ開発
		南エリアで奈良県産金ごま使用ごま団子開発
	5	ディアーズコープたつたがわ省電力型冷ケース導入
	6	ディアーズコープいこまで食育・環境フェア開催
	9	ならコープ容器包装指針を変更
	11	南部地域産業振興推進大会「なんゆう祭」に参加
	12	市民・地域主導による再生可能エネルギー普及学習会

年	月	ならコープ環境活動のあゆみ
2014	2	エネルギー政策を策定
	3	東吉野村「つくばね発電所」復活に災害支援積立金から寄付金贈呈
	4	奈良県エコキャラクター「な～らちゃん」付きの米粉入り食パン販売を開始、利用1点につき1円を奈良県環境県民フォーラムに寄付、県内環境保全活動に貢献
		本部建替えに伴いLED照明、人感センサー導入による省エネ施設化
	6	市民共同発電所「恋の窪未来発電所@ならコープ」発電開始
	10	田原本支所太陽光発電設備(273kW)を設置
	11	コープおしくま、コープたかだのLED照明に入れ替え
2015	1	東吉野水力発電株式会社設立され、(株)CWSが資本参加
	3	水源地の村・川上村「未来の風景づくり」開始。
		農産加工センターの食品残渣を乾燥し、産直生産者が堆肥原料として活用開始
		三菱自動車よりアウトランダー PHEV 寄贈を受ける
	6	発電事業を目的にした子会社(株)コープエナジーなら設立
		コープいまごのLED照明に入れ替え
	7	(株)コープエナジーならが桜井支所 53kW、西奈良支所 53kW、コープみみなし 248kW、ディアーズコープたつたがわ 365kW、コープ朱雀 256kW に太陽光発電設置
	8	店舗でクールシェア実施
12	木質ペレットを燃料とするペレットストーブを奈良県の補助を受け、本部に設置	
2016	3	田原本物流センター東棟開設
		田原本支所にBDF車両18台導入し、合計63台で運用
	5	吉野にある竜門岳付近で採水した天然水を使用した宅配水事業(奈良桜よしの天然水)、水耕栽培、農産集荷拠点として吉野事業所を開設。
	8	吉野事業所に太陽光発電設備を設置(全量売電890kW、自家消費12kW)
	9	太陽光発電収益の一部を寄付し、再エネ協同基金を創設し、基金を管理する(一財)再エネ協同基金を設立
	11	コープなんごうオープン。冷凍冷蔵ショーケースに自然冷媒(CO <sub>2</sub> )を使用、LED照明、太陽光発電設備の設置と発電した電気を店内で使用することで電気使用量の削減を行う環境にやさしい店舗として開設
	12	(株)CWSが小売電気事業に参入し、ならコープ事業所への電気供給を開始
本部事業棟に太陽光発電設備設置(自家消費49kW)し、災害時に活用できるように蓄電池をあわせて設置		
2017	1	コープなんごう太陽光発電開始(自家消費308kW、全量売電61kW)
		ディアーズコープいこまにて使用済天ぷら油回収作業軽減としてペットボトル回収開始
		「奈良の木」を使用した贈り物開発プロジェクトへの参加
	4	組合員への電気供給「ならコープでんき」開始

年	月	ならコープ環境活動のあゆみ
	6	環境月間にオールド冷蔵庫コンテスト開催。1974 年生冷蔵庫がグランプリ
	7	環境学習会「SDGs(持続可能な開発目標)ってなに？」～再生可能エネルギーの普及で持続可能な社会をめざそう～」を開催。
		東吉野水力発電(株)により復活した「つくばね発電所」が 54 年ぶりに発電を開始
	9	コープ学園前、コープ朱雀、コープおしくまの 3 店舗について環境省の補助事業を活用し、省エネポテンシャル診断実施。
	10	組合員のつといで「エシカル消費」学習とエシカル月間に取り組む
	11	コープ七条オープン。冷凍冷蔵ショーケースに自然冷媒(CO <sub>2</sub> )を使用、LED 照明、太陽光発電設備の設置と発電した電気を店内で使用することで電気使用量の削減行う環境にやさしい店舗として開設
2018	1	つくばね発電所の電気をならコープでんきの電源として組み入れ、組合員に供給開始。
	2	コープ七条太陽光発電開始(自家消費 313kW)
	5	ならコープ with ローソン真美ヶ丘店太陽光発電設置(自家消費 66kW)
	6	第 46 回通常総代会において「コープ SDGs 行動宣言」を組合員と確認
		コープいまごりリニューアルオープン。冷凍冷蔵ショーケースに自然冷媒(CO <sub>2</sub> )を使用、電気使用量の大幅削減を実現し、環境にやさしい店舗として開設
		環境月間にオールドエアコンコンテスト開催。1976 年製エアコンがグランプリ
		環境 NAVI(廃棄物計量管理システム)を導入
	8	熱中症予防の呼びかけとともにならコープでんき契約者全員に、8 月度の電気料金を一律 5%値引き実施
	9	コープふれあいセンタ六条のスペースをフードバンク奈良の食材提供拠点として提供
ならコープでんき利用者の 86 人がエネルギーの産地である「つくばね発電所」を見学し、エネルギーの地産地消について学習		
ディアーズコープいこま、ディアーズコープたつたがわ、コープみみなしの 3 店舗について環境省の補助事業を活用し、省エネポテンシャル診断実施。		
2018	10	下北山村の村づくりに関する包括連携協定を締結
		組合員のつといでならコープの取り組みと SDGs との関係についてみんなで学ぶ機会をつくり 4,452 人の参加
		コープ七条、コープ朱雀では SDGs お買い物ラリー実施
	12	本部事務棟の屋根を地域の環境団体(一社)地域未来エネルギー奈良に貸借し、発電した電気を CO <sub>2</sub> ゼロの電気として購入開始。
2019	1	下北山村の小又川発電所更新プロジェクト更新工事開始
	2	小又川発電所更新資金の一部を社会投資ファンドで募集を開始
	3	BDF 車両を経年劣化や故障頻度増加により 8 台減車し、46 台になる
		ペットボトル、食品トレーリサイクルのエフピコ(株)を組合員、店舗職員が見学

年	月	ならコープ環境活動のあゆみ
	4	米粉入り食パン廃盤にともない、2018 年度からは(株)ハートフルコープよしのが製造する「桜よしの天然水 8Lボトル利用 1 点につき 1 円を積み立て、奈良県環境県民フォーラムに寄付を開始。
	5	店舗の冷蔵冷凍ショーケースの清掃を開始。
	6	2030 環境ビジョン策定会議キックオフとして NPO 法人環境市民下村伊都子氏による学習会を開催
	11	(株)CWSが提供するならコープでんきは、太陽光発電で発電した電気を一定価格で買い取る制度である固定価格買取制度(以下FIT制度)の買取期間が終了する組合員からの買取方針を確定し、2019 年 11 月から組合員宅の屋根の太陽光発電の買取を開始
2020	2	コープいまご太陽光発電設置(自家消費 108kW)
	3	(一社)かわかみらいふに(株)コープエナジーならが蓄電システム導入(5kW)。発電した電気はかわかみらいふが自家消費するとともに蓄電池に貯め災害時に備える。余剰電力はならコープでんきの電源に活用。(株)CWS が運営する葬儀会館ここ和 に蓄電システム導入(自家消費 5kW)
	5	下北山村との協働により更新した水力発電所 小又川発電所が発電開始(197.7kW) 店舗で漬け物や豆腐、畜産、水産商品のレジでのポリ袋入れサービスを廃止
	9	ならコープの 2030 環境ビジョンを策定。CO <sub>2</sub> 50%削減、食品ロス 50%削減、プラスチック容器包装 30%削減する。
	10	気候ネットワーク広瀬和代氏を講師に招き「エネルギーを選んで災害を減らそう！かんたん、おいしい、防災クッキング～」を開催、15 人(うちオンライン 8 人)
	12	奈良県は「奈良県環境総合計画(2021-2025)(案)」に対する意見を募集、ならコープと(一財)再エネ協同基金が意見を提出。
2021	2	コープみみなし改装。傘のしずく取り機を実験導入。
	4	下市ステーション開設。太陽光発電(19.4kW)と蓄電池(4kWh)、EV バッテリーから施設に給電できる V2H(Vehicle to Home)を設置。 水素自動車のトヨタ MIRAI、電気自動車の日産リーフを導入。環境配慮型車両(水素自動車・電気自動車・プラグインハイブリッド車)は合計 54 台に。
	5	コープいまごでは冷蔵・冷凍ショーケースおよび空調の室外機に省エネ機器コンティニュームを設置
	6	コープみみなしにて透明な容器・蓋の実験回収開始
	8	天川村は「令和3年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(再エネの最大限の導入の計画づくり及び地域人材の育成を通じた持続可能でレジリエントな地域社会実現支援事業)」に係る補助事業」の事業者を公募、(株)コープエナジーならが採択される。
	11	奈良教育大学副学長の藤井智康教授とエフコープ組合員活動部を講師に迎え「環境測定活動 第 30 回記念講演会」を開催。

年	月	ならコープ環境活動のあゆみ
	12	奈良県の補助金「令和3年度地域エネルギー資源活用支援事業」を活用して一般財団法人 再エネ協同基金が薪ストーブを設置
2022	2	新電力各社への負担増が消費者の不利益につながることから「容量市場制度の見直しを求める意見」を経済産業大臣 萩生田光一氏、環境大臣 山口壯氏宛てに提出。 傘のしずく取り機全店導入。
	3	コープ学園前リニューアルオープン。省エネ機器導入により 28%程度の電気使用量削減に合わせて太陽光発電も設置。 透明な容器・蓋の回収を全店で実施。 天理市は 2022 年 3 月「天理市立南中学校電力購入契約(PPA)による太陽光発電設備導入事業」の実施事業者を公募、(株)コープエナジーならが同事業に応募。 コープ学園前改装、省エネ型冷蔵・冷凍ショーケース、太陽光発電設備(自家消費)導入。 環境省「令和3年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金」を活用し旧農産加工センターに太陽光発電(131.04kW)をおひさま PPA(株)が設置、旧農産加工センターは他企業への賃貸中であることから、発電した電気は旧農産加工センターでは使用せず、送電線にて物流センターまで託送し、電気を使用するオフサイト PPA という新しい事業モデルで導入。
	4	「天理市立南中学校電力購入契約(PPA)による太陽光発電設備導入事業」の実施事業者に(株)コープエナジーならが採択される。
	5	コープなんごうに空調のエネルギー効率改善につなげる静電気除去シートのコンティニューム設置。
	7	映画ウエンデ実行委員会による映画「ウエンデ～光と水のエネルギー～」を奈良県文化会館と橿原文化会館で開催し、延べ 146 人が参加。
	7	小型 EVトラック ELEMOMO(HW-ELECTORO 社)納車。同 10 月に組合員 吉村恵さんによるデザインをラッピングし、あったか便配送車両としてコープ学園前に配車。
	10	サイバーインシデントにより内部データが暗号化され、事業活動に大きな影響が出る。無店舗事業では 5 週間配送停止する事態になる。
	12	再エネ 100 宣言 RE Action に登録。2035 年に事業活動で使用する電力を再エネ 100 で運用を社会に宣言。
	2	コープ七条に空調制御システムであるエナッジ air 導入。
	3	奈良県廃棄物対策課が公募した「プラスチック削減動画コンテスト」に応募した「プラボトルのべったん動画」が優秀賞を受賞 (株)コープエナジーならによる「天理市立南中学校電力購入契約(PPA)による太陽光発電設備導入事業」完成。 コープ朱雀、コープ学園前、コープみみなしに空調のエネルギー効率改善につなげる静電気除去シートのコンティニューム設置

年	月	ならコープ環境活動のあゆみ
2023	4	下市ステーションの LED 化工事
	6	再エネ 100 宣言 RE Action の団体とともに吉田理事長が西村環境大臣を訪問。
	7	コープたつたがわりリニューアルオープン。
	8	高田支所プレハブ冷蔵庫の機器更新、桜井支所プレハブ冷蔵庫の機器更新 コープ学園前 B1B2LED 化工事
	11	「Fry to Fly Project」に参加表明しました。
	12	再エネ協同基金の「春日山原生林を歩こう」が日本生活協同組合連合会の「つなぐ、つなが。スマイルストーリー」の取材を受けホームページで掲載されています。
	2	再エネ協同基金の講演会「森とともに生きる未来」を開催。
	3	コープいこま、コープ真美ヶ丘、コープたつたがわ、コープ七条にコンテナを設置。 物流センターへパワーガードを設置。
2024	4	アルミ付き紙パックの実験回収をコープ真美ヶ丘からスタート。
	7	物流センタードライ棟稼働。
	9	山の辺センター竣工式、開所式を開催。
	2	再エネ協同基金の講演会「海の中から地球を考える」を開催。
	3	物流センターへパワーガードを設置。

## 用語解説

### <sup>1</sup> V2H((Vehicle to Home)

電気自動車に搭載されている蓄電池から家の中に電気を送るための装置。自動車から家へを意味する「Vehicle to Home」が V2H という名前の由来。

### <sup>2</sup> 再エネ 100 宣言 RE Action

企業、自治体、教育機関、医療機関等の団体が使用電力を 100%再生可能エネルギーに転換する意思と行動を示し、再エネ 100%利用を促進する新たな枠組み。

### <sup>3</sup> 奈良県環境県民フォーラム

環境保全活動を積極的に行っている県民団体や企業等で構成し、相互の意見や情報交換を通じてそれぞれの団体等の活動をステップアップするとともに、環境保全活動の先導的役割を果たすことを目的として平成9年8月に発足。

### <sup>4</sup> マイクロプラスチック

直径 5 ミリメートル以下の小さなプラスチックのこと。

### <sup>5</sup> FSC 認証

持続可能な森林活用・保全を目的として誕生した、「適切な森林管理」を認証する国際的な制度。認証を受けた森林からの生産品による製品には FSC ロゴマークがつけられる。

### <sup>6</sup> MSC 認証

MSC(Marine Stewardship Council:海洋管理協議会)の厳格な規格に適合した漁業で獲られた持続可能な水産物にのみ認められる証、MSC ロゴマークがつけられる。

---

7 ローリングストック

普段の食品を少し多めに買い置きしておき、賞味期限を考えて古いものから消費し消費した分を買い足すことで常に一定量の食品が家庭で備蓄されている状態を保つための方法。

8 BCP

事業継続計画のこと。災害などの緊急事態が発生したときに、企業が損害を最小限に抑え、事業継続や復旧を図るための計画。